

2012年度 昭和会誌 診療部門



公益財団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院・昭和会クリニック

もくじ

- 3 内科（総合内科）
- 5 血液内科
- 6 糖尿病内科
- 7 消化器内科
- 9 循環器内科
- 10 呼吸器内科
- 13 神経内科
- 18 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 20 呼吸器外科
- 23 整形外科・リハビリテーション科
- 27 形成外科
- 29 脳神経外科
- 31 産婦人科
- 33 新生児内科
- 37 小児科
- 39 泌尿器科
- 40 眼科
- 41 気管食道・耳鼻いんこう科
- 42 皮膚科
- 44 麻酔科
- 46 放射線診断科
- 48 放射線治療科
- 50 緩和医療科
- 52 病理診断科
- 56 在宅診療科
- 58 歯科、歯科口腔外科

内科(総合内科)

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は休診状態でしたが、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度インフルエンザを含めて739件行いました。一昨年よりは色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきました。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと考えています。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは特女性で診断基準が問題になっていますが、腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われまます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われまます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ケースワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思ひます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。当科としてはこの活動にも力を入れていく方針です。これからも地道に診療、委員会活動を続けようと思ひます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士(鹿児島大学)

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士(日本医科大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数（平成24年1月～平成24年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均（稼働日数272日）			平均通院	初診率
			合計	初診	再診		
3,757	6,231	9,988	36.7	13.8	22.9	2.7	37.6%

今給黎総合病院外来患者数（平成24年1月～平成24年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均（稼働日数272日）			平均通院	初診率
			合計	初診	再診		
1,377	481	1,858	6.8	5.1	1.8	1.3	74.1%

【予防接種件数】（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

	インフル エンザ	おたふく	エイム ゲン	ビー ムゲン	日本 脳炎	麻し ん	風し ん	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻し ん 風し ん	三 種 混 合	ニ ュー モ バ ッ ク ス	合 計
4月		2		3				1			3			9
5月		2									6			8
6月			1	1			1		1				1	5
7月				1							8			9
8月		1			1		1				10			13
9月		2		1						1	7			11
10月	78		3	2	3		1				4		3	94
11月	284		4	4	1			1	2		1		4	301
12月	191			1							4			196
1月	37	1		3							4		2	47
2月	2		2	2			1	2			8			17
3月	1	3	1	1			2		1		18		2	29
総合計	593	11	11	19	5	0	6	4	4	1	73	0	12	739

血液内科

血液内科部長 小 濱 浩 介

当院血液内科は現在常勤医師1名（総合内科兼任）で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は基本的には月曜、火曜、金曜ですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

【診療実績 平成 24 年】

新規患者入院数47名（悪性リンパ腫14例、多発性骨髄腫13例、成人T細胞白血病リンパ腫6例など）であり、総合内科との連携で診療を行っています。

【スタッフ】

小濱 浩介(おばまこうすけ) 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医、臨床腫瘍学会暫定指導医
その他日本輸血学会、緩和ケア学会などに所属

【平成 24 年度中の学術活動】

【学会発表】

2012年10月京都 日本血液学会総会

Bortezomib, Melphalan and Dexamethasone Therapy in Elderly Patients with Newly Diagnosed Myeloma. Kosuke Obama

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんにつきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、平成24年度は担当医師が常勤医1名のみと少ない診療体制のため、管理出来る患者さんの数は、既に限界に達しております。そのため、病状が落ち着いておられる患者さんにつきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【診療実績（累計人数）】

外来患者数：初診 68人 再診 2,424人 ⇒ 合計 2,492人

入院患者数：当科 439人 他科 1,243人（新患 259人） ⇒ 合計 1,682人

【平成 25 年度の計画】

前述のように平成 24 年度は常勤医 1 名と少ない医師数での診療体制に対し、患者さんの増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者さんの増加が著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、既に限界に達しております。そのため、以前より推し進めております開業医の先生方との地域連携パスを含めた病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、鹿児島大学のご協力を頂きながら、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご支援をお願いすることもあるかと思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しくお願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC(診断群分類包括評価)といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、本年度より末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行なえるようにシステムを構築し、通院中の全患者さんに検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOL を維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科・肝臓内科

部長 前田正彦

消化器内科・肝臓内科は、月曜日から金曜日まで外来と検査・治療を行っております。消化器外科や放射線科との協同で集学的な治療を提供しています。

検査は上・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、上・下部超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、内視鏡的逆行性膵胆管造影、IDUS、胃透視、注腸検査、肝生検、肝炎ウイルス検査などを行っております。

治療は、上部・下部消化管内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的拡張術、静脈瘤結紮術・硬化療法、内視鏡的粘膜切除術・粘膜剥離術、ポリープ切除術、各種ドレナージ・拡張術、穿刺吸引術、PEG 造設術や、肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法、肝細胞癌に対する動脈塞栓術、肝細胞癌の焼灼術など多岐にわたっています。

当科の特徴は、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、総合病院の特徴から他疾患やリスクの高い患者さんが多いこと、消化器癌の化学療法を行っていること、緊急処置を要する患者さんの緊急搬送が多いことです。外来は離島を含め県内各地の病院と連携しています。

内視鏡室には4名の専属スタッフがおり、当科の高い安全性と成功率を維持する要となっております。

【スタッフ紹介】

常勤医師

前田 正彦

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会専門医
アメリカ内科学会専門医
日本医師会認定産業医
日本体育協会公認スポーツドクター
日本旅行医学会認定医

今給黎 和幸

日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定医
日本人間ドック学会認定医

非常勤医師

松元淳 税所篤郎 田村智章 大磯陽子
有馬志穂

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 江口真美 大迫翔

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
前田 税所	前田 田村	前田 大磯	前田 今給黎	前田 今給黎	今給黎 交代制

診療、検査、投薬などはすべて完全予約制です。
午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】（2012年1月～12月）

外来患者数 初診 2,014名、再診 6,269名

入院患者数 627名

【検査件数】（平成24年4月～平成25年3月）

検査名	件数
胃・十二指腸ファイバー	
（経口より観察）	1,982
（経鼻より観察）	167
食道ファイバー	7
大腸ファイバー	904
上部超音波ファイバー（EUS）	57
下部超音波ファイバー（CUS）	2
内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）	14

【処置件数】（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

処置名	件数
上部消化管内視鏡の止血術	61
下部消化管内視鏡の止血術	13
経口イレウスチューブ留置術	52
経肛門的イレウスチューブ留置術	13
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	12
内視鏡的胃・十二指腸狭窄拡張術	2
内視鏡的食道狭窄拡張術（拡張バルーンによる）	15
小腸・結腸狭窄部拡張術	4
E I S ・ E V L	5
胃・十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD）	11
食道早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD）	1
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	2
内視鏡的大腸ポリープ切除術	164
内視鏡的胃・十二指腸ステント留置術	4
食道ステント留置術	7
大腸ステント留置術	8
内視鏡的胆道ドレナージ術（ENBD、ERBD）	51
内視鏡的乳頭切開術（EST）	21
内視鏡的胆道ステント留置術	10
内視鏡的胆道碎石術（EML）	49
内視鏡的胃瘻造設術	26
胃瘻閉鎖術	1
PEG交換	33
PEG-J交換	2
W-EDチューブ留置	16
経皮経肝胆道ドレナージ術（PTCD）	6
経皮経肝胆嚢ドレナージ術（PTGBD）	2
経皮経肝胆嚢穿刺吸引術（PTGBA）	7
軸念転整復	5

【講演・学会活動など】

【論文】

Difference in serum complement component C4a levels between hepatitis C virus carriers with persistently normal alanine aminotransferase levels or chronic hepatitis C.

Kazuyuki Imakiire et al

Mol Med Report 6(2):259-64 2012

【学会】

胆管炎を繰り返した膵癌によるG00に対するSEMS留置の1例

第48回日本胆道学会学術集会 2012年9月21日

東京

今給黎和幸 他

自己免疫性膵炎の経過中に腎細胞癌膵転移を来した1例

第83回日本消化器内視鏡学会総会

2012年5月12-14日 東京

橋元慎一 今給黎和幸 他

腸重積にて緊急手術に至ったPeutz-Jeghers症候群の一例

第100回日本消化器病学会九州支部例会

2012年11月2日 鹿児島

増田秀一郎 今給黎和幸 他

当科における超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ術の治療成績

第100回日本消化器病学会九州支部例会

2012年11月3日 鹿児島

中澤潤一 今給黎和幸 他

【研究会】

PEG困難であったVPシャントの1例

第16回鹿児島PEG研究会 2012年3月31日 鹿児島

梅北裕司 他

下部消化管内視鏡検査を受ける入院患者への事前訪問の取り組み

- アンケートとパンフレット作成を通して -

第62回九州消化器内視鏡技師研究会

2012年11月3日 鹿児島

梅北裕司 他

【平成 25 年の計画】

【所感・今給黎和幸】

消化器内科としては、地域の基幹病院として開業医の先生方のニーズに対応するためにも、なるべく救急患者も断らない体制を維持したいと思えます。それと同時に急性期病院の位置付けを明確にして当院の特色が何なのかをアピールしていきたいと思えます。

たとえば、肝胆膵に関しては診断から治療まで他施設よりも精度の高いものを目指していきたいと思えます。それが差別化につながっていくものと思われま。

また研修病院として、医療スタッフから研修医、あるいは中堅医がキャリアアップ出来るように最新の情報や治療手技が定着するように大学との連携を強化し、当科ならではのカリキュラムやカンファレンス、勉強会の充実を図っていきます。

ダーウィンは言っています。

強いものが生き残れたわけではない。

賢いものが生き残れたわけではない。

変化したものが生き残れたのだ。と、

めまぐるしく変わる医療情勢と、かつて経験した事のない超高齢化や人口減少に、いかに患者ニーズや社会的ニーズに対応して変化できるかが問われているのではないかと思います。

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室（大石充教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成24年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣された下舞浩二、神園悠介医師が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康、小平由美が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島市内または市外の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者様が最近では増加している印象です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。

冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になり

ました。併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 25 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【手術症例数】（平成 24 年度）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 4 件
- 2) 入れ替え : 2 件

【超音波検査件数】（平成 24 年度）

- ・心エコー : 約 3, 100 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 300 件

【冠動脈MDCT】

約 300 件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 是枝快泉

平成24年4月に、岩川から是枝に、砂永から松山に交代し、川島、窪田を含め4人の常勤医で診療にあたっております。また、12月からは週に1回水曜日に非常勤として濱田医師が外来診療を行っております。

学会や研究会、講演会に積極的に参加して最新の医療を学び、他科、特に、呼吸器外科、放射線科、病理診断科と協力し、当科および院内でのカンファレンスで協議し、患者様毎に最良の医療を提供できるように努めております。なお、当科は日本呼吸器病学会関連施設であります。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

当科で診療を行う胸部悪性疾患の殆どは肺癌ですが、胸腺癌、浸潤性胸腺腫、悪性中皮腫も診療しています。毎週水曜日に呼吸器外科、放射線科、病理診断科とのカンファレンスを行い、最も適切な診断・治療方法について協議しています。胸部X線やCTなどの画像診断、気管支鏡検査などにより診断を確定し、患者様には通常病名を告知し、患者・家族の希望や意向を考慮し治療方針を決定しています。

内科領域では化学療法（抗癌剤による治療）が中心となりますが、同時に鎮痛などの緩和治療も併行して行っています。外来化学療法も積極的にを行い、患者様の負担を軽減するように努めています。

肺癌

肺炎については、日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、医療・介護関連肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインを準拠して、診断・治療を行っております。肺炎球菌ワクチン接種も、適応患者には積極的に行っております。

肺結核症については、当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。肺結核症が疑われる入院患者には、院内感染防止の観点から、個室や当院で1床しかない陰圧個室に排菌が否定されるまで入室してもらっております。

肺非結核性抗酸菌症は、中年以降の女性の患者が多くなっており、治療を行っても治癒が困難な例が多く、また、治療の副作用もあり、治療に難渋することが少なくありません。治癒の方向に持っていければよいのですが、少なくとも症状緩和・病状改善を目標に、外来を主として治療を行っております。

肺真菌症患者は多くはありませんが、陈旧性肺結核や肺気腫、肺癌などの肺基礎疾患に合併症と

して発症する場合があります。診断および治療を慎重に行っております。

気管支喘息

鹿児島県は、人口あたりの喘息死が最下位は脱しましたが未だ全国と比較して悪く、当科でも喘息死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール不良な喘息患者が減少し、実際、当院で喘息患者の救急外来受診・緊急入院の数が減っているようです（表2）。

間質性肺炎、びまん性肺疾患

原因が明らかでない特発性肺線維症や特発性間質性肺炎、続発性の膠原病関連間質性肺炎や過敏性肺臓炎、薬剤性肺炎などが頻度として多いです。精査として詳細な病歴聴取や血液検査、画像検査、気管支鏡検査を行いますが、診断に苦慮する症例も少なくなく、外科的肺生検を行う場合もあります。さらに、治療においては、特発性では特効薬がなく、続発性でもステロイド剤および免疫抑制剤を併用しても難渋する症例が多いです。また、急性増悪例は、非常に予後不良であります。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性呼吸不全

喫煙歴や職業歴などの生活歴を含む病歴、肺機能所見、画像所見などから診断を行い、病状に適した治療を選択し、呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行っております。慢性呼吸不全となれば、在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については、救急患者のみの対応とさせていただきます。

平成22年からの延べ外来患者数と新患患者数を表1に示します。最近では、年間の外来患者延べ数は7000人前後で、新患患者数は750人前後であります。

平成24年の外来患者の疾患としては、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患・肺気腫、肺癌、間質性肺炎の順に多いです。

当科外来では、患者の待ち時間の短縮や専門診療の充実など外来診療のサービス向上のため、平成24年12月から予約制を導入しました。紹介の際は事前に当科外来にご連絡して頂く必要があります。

紹介して頂く他の医療機関にはご面倒をお掛けしていますが、外来診療のサービス向上に一定の効果が出ていると考えています。

表1)

	延べ患者数	新患患者数
平成22年	7,578	767
平成23年	6,795	725
平成24年	6,758	739

【禁煙外来】

水、金（主に水曜）の午前中みの外来となり、完全予約制です。ご希望の方はかかりつけ医の先生にご相談のうえ、紹介を頂くようお願いしています。

【入院診療】

入院診療としては、平成18年から3階西病棟を主病棟としています。以前は各病棟に患者様が点在していましたが、現行になって、効率性の向上や看護師を含むスタッフとの連携および教育の充実による極め細かな診療の実施、医療安全性の改善などがなされていると考えています。

軽症患者であれば他病棟に入院することはありますが、重症例や呼吸不全例、抗癌剤治療例などは通常3階西病棟に入院して頂いております。入院患者数の内訳を表2に示します。

表2)

	22年	23年	24年
肺癌	321	287	328
肺炎	110	82	59
びまん性肺疾患	62	48	36
気管支喘息	21	14	9
慢性閉塞性肺疾患	11	15	20
肺結核	9	10	2
その他	144	134	56
合計	678	590	510

当科の延べ入院患者数では、例年、肺癌患者が最多となっています。このように肺癌患者が多い理由として、当院が肺癌に対して内科的治療・外科的治療・放射線治療の全てが施行できる施設であり、鹿児島市内では現在のところ鹿児島大学附属病院と当院しかないためと考えます。

当科での肺癌治療としては、早期肺癌で手術となる患者や進行肺癌で高齢や全身状態不良のため抗癌剤による化学療法が施行できない患者を除

き、化学療法が主体となります。化学療法は入院を繰り返して治療を行う場合が多く、1人の患者が複数回入院することになります。呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科など当院を受診される肺癌患者全体の病期は、Ⅲ期が約20%、Ⅳ期が約30%であり、この進行肺癌患者の多くは当科での化学療法となります。

肺炎については、当科ではその3割は高齢者の誤嚥性肺炎でありました。当院では誤嚥性肺炎の患者は総合内科が通常受けており、他施設の呼吸器内科では肺炎における誤嚥性肺炎の比率がもっと高いのではないかと考えられます。

気管支鏡検査は、当科では例外を除き全例入院して行っております。平成24年の気管支鏡検査数は104例で、重大な合併症はありませんでした。検査前診断として、肺癌・肺転移などの悪性疾患疑いが68例と最多で、続いて、抗酸菌症・真菌症など肺感染症疑い、および、びまん性肺疾患疑いが各17例でした。最終的に肺癌と診断された症例において、気管支鏡検査を行った67例中49例（診断率74%）で、組織診または細胞診で診断が確定しています。診断率は例年70%前後で、診断率を上げるべく適応を考慮し、安全に的確な検査を施行してまいります。

最後に、当科の診療が円滑に行っているのは、師長をはじめとする看護師や医療事務、ケースワーカー、クラーク、理学療法士、検査技師などの病棟スタッフ、外来スタッフ、多くのコメディカルの方々のお蔭であり、ここに深謝いたします。

【スタッフ】

略歴

是枝 快泉

- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本結核病学会結核・抗酸菌症指導医（本年度所得）
- ・日本化学療法学会抗菌化学療法認定医（本年度所得）
- ・ICD制度協議会認定医
- ・肺癌CT検診認定医師（本年度所得）
- ・医学博士
- ・鹿児島大学医学部臨床教授（平成24年10月1日～平成25年3月31日）
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会受講済
- ・院内感染対策講習会〈日本感染症学会 / 厚生労働省〉受講（本年度）
- ・臨床研修指導医養成講習会受講（本年度）

川島 寿史

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本神経学会専門医
- ・肺癌CT検診認定医師（本年度所得）
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会受講済

窪田幸司

- ・日本内科学会認定内科医
- ・臨床呼吸機能講習会受講（本年度）

松山崇弘

- ・日本内科学会認定内科医
- ・臨床呼吸機能講習会受講（本年度）
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会受講（本年度）

【業績】

【学会総会発表】

非 HIV・非移植例におけるサイトメガロウイルス感染症の臨床像に関する後視的検討

第52回日本呼吸器学会学術講演会

2012年4月 神戸

田上あさ子、是枝快泉、大重雅寛、松田俊明、山元滋樹、水野圭子、寒川卓哉、東元一晃、井上博雅

当科で経験したニューモシスチス肺炎の臨床的検討

第52回日本呼吸器学会学術講演会

2012年4月 神戸

隈元朋洋、是枝快泉、松田俊明、山元滋樹、水野圭子、井上博雅

肺抗酸菌症患者における血清抗glycopeptidolipid core lgA抗体の有用性に関する検討

第88回日本結核病学会総会 2013年3月 幕張

是枝快泉、山元滋樹、靱 博晃、岩川 純、金澤裕信、東元一晃、是枝快房、井上博雅

血清抗glycopeptidolipid core lgA抗体の有用性に関する多施設共同前向き研究

第53回日本呼吸器学会学術講演会 2013年4月

東京

是枝快泉、山元滋樹、靱 博晃、岩川 純、渡辺正樹、水野圭子、寒川卓哉、東元一晃、是枝快房、井上博雅

【学会地方会発表】

喉頭癌術後に異時性重複癌として発症した原発性肺癌の2例

第69回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会

2012年11月17日 北九州市

窪田幸司、松山崇弘、川島寿史、是枝快泉、井上博雅

釣藤散による薬剤性器質化肺炎と考えられた一例

第299回日本内科学会九州地方会

2012年11月25日 宮崎市

松山崇弘、窪田幸司、川島寿史、是枝快泉、田代幸恵、白濱 浩、井上博雅、福田 悠

確定診断が困難であった縦隔原発絨毛癌と考えられた1剖検例

第53回日本肺癌学会九州支部学術集会
第36回日本呼吸器内視鏡学会九州支部会
2012年2月23日 那覇市

松山崇弘、窪田幸司、川島寿史、是枝快泉、田代幸恵、白濱 浩、濱崎哲郎、水野圭子、井上博雅

【研究会発表】

血清抗glycopeptidolipid core lgA抗体の有用性に関する検討

第2回鹿児島呼吸器感染症研究会

2012年12月13日

是枝快泉、山元滋樹、靱 博晃、岩川 純、渡辺正樹、水野圭子、寒川卓哉、東元一晃、是枝快房、井上博雅

【研修会、講演会】

結核の予防～慌てず、冷静に対応を～

院内感染研修会 2012年10月26日

是枝快泉

神経内科

神経内科部長 長 堂 竜 維

【特徴】

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・篠原は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人中篠原を除く4人が日本神経学会神経内科専門医で、篠原も取得要件は満たしており取得予定です。加えて6人の非常勤医師にも応援をもらい頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から、急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつである事もあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者さんですが、昨年の入院患者総数416人とほぼ同数の415名（H24年1月1日～H24年12月31日）が一年間で入院されました。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多い事を考えると、ほぼ毎日1.2人の入院患者を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者さんは、一年間の初診患者総数が1,100人、外来患者総数が12,203人で、一日平均外来患者数は約35人でした。病棟は昨年度と同じく別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の児浦先生・川上先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは上之菌師長以下30名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べ高齢の患者さんやADLの低下した患者さんも多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山が、5人の常勤医師と6人の非常勤医師を上手くおだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人・臨床研修医対応・血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として学生講義・大学病院専門外来・看護学校の授業、各種講演会などを行っています。林・甲斐の両名は各種学会で口演発表し、論文も複数発表しています。また林・甲斐・篠原の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山芳一 副院長・神経内科部長
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医、日本神経学会評議員
 鹿児島大学臨床教授
 日本神経学会九州地方会世話人
 久木田学園非常勤講師、愛媛大学医学部卒

長堂竜維 神経内科部長
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医
 鹿児島大学医学部非常勤講師
 日本神経学会九州地方会世話人
 久木田学園非常勤講師
 鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長
 日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
 日本内科学会総合内科専門医
 鹿児島大学医学部卒

甲斐 太
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

篠原和也
 日本内科学会認定医、鹿児島大学医学部卒

非常勤医師
 有村由美子医師（電気生理学検査）
 丸山征郎医師（血管病）
 荒田仁医師（神経内科）
 橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
 橋口良也医師（頸部血管超音波検査）
 池田賢一医師（神経内科）

【診療状況】

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	96	75	115	112	120	120	124	110	99	112	99	86	1,268
再診	899	876	935	936	963	954	997	958	953	1,025	898	956	11,350
合計	995	951	1,050	1,048	1,083	1,074	1,121	1,068	1,052	1,137	997	1,042	12,618
1日平均 初診患者数	4.6	3.3	4.9	5.1	5.3	5.1	5.4	4.4	4.7	4.7	4.4	4.0	-
1日平均 再診患者数	42.8	38.9	39.8	42.5	42.8	40.6	43.3	38.3	45.4	42.7	39.9	44.5	-
1日平均 患者数	47.4	42.3	44.7	47.6	48.1	45.7	48.7	42.7	50.1	47.4	44.3	48.5	-
診療実日数	21.0	22.5	23.5	22.0	22.5	23.5	23.0	25.0	21.0	24.0	22.5	21.5	272.0

(昭和会クリニック含)

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	37	20	39	29	33	39	39	43	33	34	32	33	34.3
退院	31	29	27	34	33	43	40	43	44	38	34	35	35.9
在院	823	673	736	844	1,010	1,056	1,009	907	823	903	737	734	854.6
平均病床数	26.5	23.2	23.7	28.1	32.6	35.2	32.5	29.3	27.4	29.1	24.6	23.7	28.0
平均在院日数	24.2	27.5	22.3	26.8	30.6	25.8	25.5	21.1	21.4	25.1	22.3	21.6	24.5

【入院患者内訳】（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

脳血管障害	103
感染症	42
パーキンソン病	29
てんかん	21
めまい	15
ALS	13
DM	7
脱水症	7
AIDP	6
MS	6
SLE	6
パーキンソン症候群	5
多発性硬化症	5
MG	4
周期性四肢麻痺	4
脊髄炎	4
脳炎	4
脳梗塞	4
不明熱	4
良性発作性頭位変換性めまい	4
CIDP	3
亜急性連合性脊髄変性症	3
筋無力症	3
血管炎	3
髄膜炎	3
脊髄小脳変性症	3
頭痛	3
皮膚筋炎	3
貧血	3
ADEM	2
CPA	2
PMR	2
RS3PE	2
ベーチェット病	2
リウマチ性多発筋痛症	2
外傷性頸部症候群	2
筋緊張性ジストロフィー	2
腰椎圧迫骨折	2
心不全	2
側頭動脈炎	2
脱水	2

低K性周期性四肢麻痺	2
低Na血症	2
認知症	2
敗血症	2
肺炎	2
歩行障害	2
ALS疑い	1
CNSループス	1
HAM	1
MCTD	1
MND	1
PEG交換	1
PMR	1
SCD	1
sensory neuropathy	1
Sweet病	1
Wernicke脳症	1
アルツハイマー型初老期認知症	1
ギラン・バレー症候群	1
サルコイドーシス	1
シェーグレン症候群	1
シャイ・ドレガー症候群	1
モヤモヤ病	1
悪性リンパ腫	1
悪性腫瘍	1
意識障害	1
仮性球麻痺	1
外傷性頸部症候群	1
間質性肺炎	1
癌性髄膜炎	1
眼窩筋炎	1
顔面神経麻痺	1
逆向性健忘	1
急性アルコール中毒	1
急性散在性脳脊髄炎	1
頸髄損傷	1
頸椎症	1
頸椎捻挫	1
血球貪食症候群	1
顕微鏡的多発血管炎	1
甲状腺炎	1

甲状腺機能亢進症	1
高K血症	1
高血圧	1
高血圧性脳症	1
四肢筋力低下	1
視神経炎	1
視神経脊髄炎	1
尺骨神経傷害	1
小脳炎	1
小脳失調症	1
深部静脈血栓症	1
進行性核上性麻痺	1
正常圧水頭症	1
脊髄損傷後遺症	1
脊髄動静脈奇形	1
舌下神経麻痺	1
前頭側頭葉認知症	1
多系統萎縮症	1
多発性骨髄腫	1
多発脳神経炎	1
低カリウム血症	1
低血糖	1
低酸素脳症	1
低髄圧症候群	1
低髄液圧症候群	1
糖尿病	1
頭位変換性めまい	1
頭部打撲	1
動眼神経麻痺	1
尿路感染症	1
熱中症	1
脳出血	1
脳症	1
馬尾症候群	1
不安神経症	1
不明	1
変形性腰椎症	1
変性疾患	1
変性疾患	1
喘息	1
膀胱直腸障害	1

感染症の内訳

呼吸器感染症	15
中枢神経感染症	14
敗血症	6
尿路感染症	4
AIDS	1
感染性胸部大動脈瘤	1
精巣上体炎	1

脳血管障害の内訳

脳梗塞	92
脳出血	5
TIA	2
SAH	1
一過性脳虚血発作	1
脳塞栓症	1
脳動脈瘤疑い	1

【死亡症例】(14名)

死因	例数
脳梗塞後遺症	2
後天性免疫不全症候群	1
急性心筋梗塞	1
急性肺炎	1
感染性胸部大動脈瘤	1
前立腺癌	1
液性免疫不全	1
難治性てんかん	1
うっけつ性心不全	1
発作性心房細動	1
慢性腎不全	2
パーキンソン病	1

【対外活動】

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究
丸山芳一(研究協力)
主任研究者 松元昌泰 広島大学脳神経内科

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究
丸山芳一(研究協力)
研究代表者 自治医科大学 島田和幸

【業績報告】

【論文】

サイクロホスファミドとリツキシマブが著効した難治性血栓性血小板減少性紫斑病の1例
鹿児島市医報 51(5) 26-29 2012
丸山芳一、徳永紘康、甲斐 太、林 茂昭、長堂竜維

難治性てんかんに対してラモトリギンが奏効したMELASの1例
臨床神経学 52(8) 626
甲斐 太**、増田 秀一郎、徳永 紘康
林 茂昭、長堂 竜維、丸山 芳一

【座長】

青年・成人血友病の定期補充療法
第8回鹿児島ヘモフィリア勉強会 鹿児島市
鹿児島東急ホテル
丸山芳一

【雑文】

日本人の非心源性脳梗塞の抗血栓療法(慢性期)を考察する
Medical Tribune誌
Fighting Vascular Events in Fukuoka 2009
丸山芳一

【口演発表】

難治性てんかん重積に対してラモトリギン(LTG)が奏効したMELASの1例
第197回日本神経学会九州地方会 福岡
2012年3月17日
甲斐 太**、増田 秀一郎、徳永 紘康
林 茂昭、長堂 竜維 丸山 芳一

脊髄神経根障害で発症し、縦隔リンパ節生検で診断しえた難治性サルコイドーシスの1例
第299回日本内科学会九州地方会 宮崎
宮崎シーガイアコンベンションセンター
2012年11月25日
加藤 豊、甲斐 太、篠原和也、徳永紘康、林 茂昭、長堂竜維、丸山芳一、田代幸恵、今給黎尚幸、米田 敏

【社内講演】

- 「 γ グロブリン療法の実際」武田薬品
ホテルレクストンイン 2012年4月5日
丸山芳一
- 「出血機序—動脈性出血は血圧依存、静脈性出血は止血機序依存」ベーリンガーインゲルハイム（株）
サンロイヤルホテル 2012年4月11日
丸山芳一
- 「抗凝固薬の適正使用普及に関する相談会」
ベーリンガーインゲルハイム（株）
ウエルビューかごしま 2012年5月29日
丸山芳一
- 「新しい認知症治療薬への期待と臨床的効果」
第一三共（株）
第一三共鹿児島出張所 2011年6月25日
丸山芳一
- 「脳梗塞の病態機序と抗血小板薬」大塚製薬（株）
大塚製薬鹿児島出張所 2012年10月10日
長堂竜維
- 「APPROCH-Jから得られた脂質療法の最新知見」
第一三共（株）
第一三共鹿児島出張所 2012年12月12日
丸山芳一
- 「脳梗塞急性期の抗血小板療法」第一三共（株）
大塚製薬鹿児島出張所 2013年1月17日
丸山芳一
- 「認知症薬の使い分け」小野薬品（株）
小野薬品鹿児島出張所 2013年2月19日
丸山芳一
- 抗凝固療法の適切な使用のために
ブルーウエーブイン鹿児島 2011年11月16日
丸山芳一

【座談会】

- 脳梗塞急性期、慢性期、回復期治療戦略
ファーライフメディカル社
霧島山上ホテル 2013年2月8日
丸山芳一

【講演会】

- 新しい抗凝固薬ダビガトランはワルファリンとどこがちがうか
八代市郡学術講演会 八代ロイヤルホテル
八代市 2012年6月15日
丸山芳一

- 脳卒中にならないための10か条
鹿児島市民健康講話
東部保健センター 2012年6月17日
丸山芳一

- 認知症とその周辺病態に対する治療
KGP講演会
パレスイン鹿児島 2012年9月15日
丸山芳一

- 抗血小板剤の特徴と使用上の注意点
第58回南薩医学研究会 2013年1月24日
かわなべ寿光苑
丸山芳一

【教育関連講義】

- 2012年1月4日
赤血球とヘモグロビンの生理学
鹿児島大学医学部3年生基礎臨床統合カリキュラム
長堂竜維
- 2012年4月17日～5月22日
久木田学園「脳神経内科」講義 合計7回
長堂竜維
- 2012年9月4日～5日
鹿児島大学医学部4年生「内分泌系構造と機能」
合計4回
長堂竜維
- 2012年12月13日～2013年1月10日
鹿児島大学医学部3年生内分泌・代謝・栄養系系統
講義 「内分泌系構造と機能」
合計4回
長堂竜維

外科 (消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)

外科部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、下記のとおりであり 2年間 頑張ってくれた柳田 茂寛先生、また衣斐 勝彦先生が7月に転出され、7月より渡邊 照彦先生、前田 光喜先生が当科に赴任されました。

当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性がもとめられる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳腺外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理との垣根のない症例検討を行っています。看護師さん、paramedical staffの参加もあり、情報共有に寄与しています。さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、このためにもカンファレンスは重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生（ポリクリ）も週1～2名受け入れており、実際の患者さんに接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者さんにお世話になっています。私が感じるところ当院の患者さんは研修生や医学生にやさしく接してくれようと思います。病院スタッフと患者さんの関係が良いことがこの結果につながっているよう思われみなさんに感謝するしだいです。近年 がんの治療法として化学療法が大きな部分を占めるようになり消化器癌 化学療法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。今後、救急・腫瘍外科・化学療法と広範囲の仕事を効率よくしていくために各部署との漏れのない情報交換がさらに重要となると思います。近年 外科は医学界の絶滅危惧種とも呼ばれ、その厳しい中で当科 staffは本当に頑張ってくれていると感謝しております。この忙しい中で外科のスタッフが地方および全国学会・研究会で病院での臨床上の結果と得られて知見をまとめ発表してくれています。

近年の外科の標準術式となりつつある鏡視下手術の進展・先進医療に遅れないよう大学との連携にも勤めています。また全国手術症例登録システム(NCD)は、各種 学会における専門医制度に導入され当院の症例もすべて登録されています。まだ不十分なシステムで現在こちらの労力に見合う dataの提供はありませんが将来は病院の評価につながる dataが提供されると思われれます。最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われ

ています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者さんへの治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。

近年、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められこともおおくなりました。連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も外科としての仕事を明確にしつつ他科との協力を重んじ治療を行い、また新たな臨床知見にかかわる発信ができればとよくばりつつ考えています。

【人事】

勤務者

<医師>

継続 今給黎 和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、花園 幸一

(転出)

衣斐 勝彦 : 平成24年6月まで
柳田 茂寛 : 平成24年6月まで

(転入)

渡邊 照彦 : 平成24年7月から
前田 光喜 : 平成24年7月から

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ

<看護師>

加治屋 加代子、松田 めぐみ

【診療状況】

<外来患者状況>

平成24年の外来受診者総数(延べ)は5,022名であった。
その内訳は初診患者:542名
そのうち107名は時間外や休日、深夜の患者である。
再診患者:4,480名

<入院患者> 563名/年

【手術症例内訳】

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	3	2	1	
乳	11	8	0	
胃	24	20	4	16
十二指腸・小腸	22	3	189	4
大腸	36	30	1	23
直腸	13	13	0	7
肝	18	17	1	8
胆	46	2	44	40
膵	10	7	3	1
ソケイヘルニア	77		77	
大腿ヘルニア	3		3	
腹壁ヘルニア	2		2	
虫垂炎	1		1	
	33		33	28

<手術症例>

手術総件数： 322件

麻酔別件数：全身麻酔 265件
脊椎麻酔 57件

【学会・研究会発表】

門脈腫瘍栓の急速進展を認めた進行胃癌の切除例
第63回 鹿児島臨床外科学会 2012年3月24日
衣斐 勝彦、濱之上 雅博、柳田 茂寛、
花園 幸一、牟禮 洋

S状結腸癌術後の肝転移に対し化学療法の著効を認め、R0切除できた1症例
Vectivix 講演会 2012年5月23日
柳田 茂寛、濱之上 雅博、花園 幸一、
衣斐 勝彦、牟禮 洋

S-1, CDDPによる術前化学放射線療法が奏功した進行食道癌と胃癌の同時性重複癌の一例
第66回日本食道学会学術集会 軽井沢
2012年6月21日
花園 幸一、濱之上 雅博、柳田 茂寛、
衣斐 勝彦、中禮 久彦、
井手上 淳一、古賀 哲也、牟禮 洋

腹腔鏡下肝切除にて確定診断を得た胆管腺腫の一例
第25回日本内視鏡外科学会総会 横浜
2012年12月7日
衣斐 勝彦、濱之上 雅博、柳田 茂寛、
花園 幸一、牟禮 洋

【座長】

第74回日本臨床外科学会総会 東京 2012年11月29日
濱之上 雅博

呼吸器外科

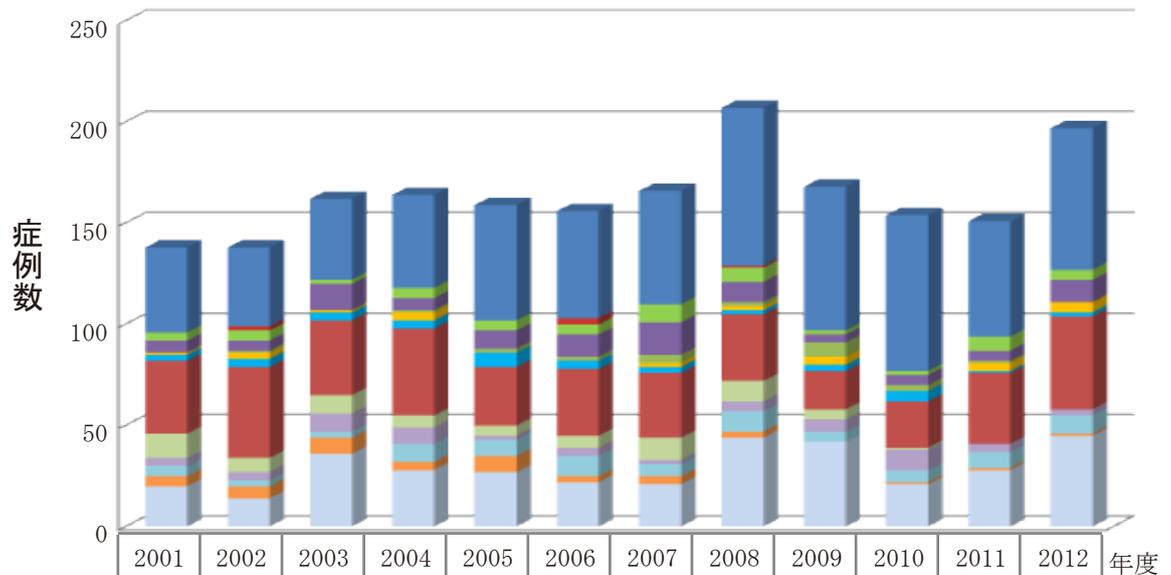
呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医	日本呼吸器外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構専門医	日本胸部外科学会認定医・正会員
日本呼吸器外科学会評議員	九州外科学会評議員
日本胸部外科学会九州地方会評議員	日本肺癌学会九州支部会評議員

2012年度は、今給黎尚幸先生の着任で巻幡 聰先生と3人体制となり、10-11年度に減少した症例数も何とか増加の兆しをみせております。

さて、今年度の手術件数は197例で、肺癌70例、転移性肺腫瘍5例、縦隔腫瘍11例、胸壁腫瘍5例、肺気腫2例、自然気胸・血気胸46例、膿胸3例、良性肺腫瘍9例、その他45例でした。手術症例の年次推移を、さらに本年度の業績を以下に示します。

【手術症例】



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	
■ 肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	
■ 気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	
合計	138	134	162	164	159	155	164	207	168	154	151	197	

【2012年度 呼吸器外科 業績】

原著

原著論文名	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
¹⁸ F ¹⁸ FDG PET for grading malignancy in thymic epithelial tumors: Significant differences in ¹⁸ F ¹⁸ FDG uptake and expression of glucose transporter-1 and hexokinase II between low and high risk tumors: Preliminary study	Eur J Rad.	81: 146-151, 2012	Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, Yoneda S, Shirahama H, Higashi M, Nakajo M

症例報告

症例報告論文	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
肺癌術後小腸転移をきたした2例	臨床外科学会誌	第74巻1号、P48-51 2012	加藤文章, 米田 敏, 光武孝倫, 牟礼 洋, 田代幸恵, 白濱 浩, 岩崎昭憲, 白日高歩
後縦隔原発神経節細胞腫 (ganglioneuroma) の2手術例	呼吸器外科学会誌	投稿中	今給黎尚幸, 米田 敏, 巻幡 聰, 岩崎 昭憲
胸膜肥厚を契機に発見された IgG4関連胸膜炎の一例	-	投稿予定	巻幡 聰, 米田 敏, 今給黎尚幸, 岩崎 昭憲

学会発表

学会発表演題名	学会名	場所・月日・年	演者
術後肺癰に対するアルギニン製剤 (アルジネートR) の効果	第29回日本呼吸器外科学会総会口演	秋田、5月17-18日 2012年	今給黎尚幸、大淵俊朗、濱田利徳、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
特異な経過をたどり治療に難渋した術後難治性無癰性膿胸の一例	第29回日本呼吸器外科学会総会口演	秋田、5月17-18日 2012年	今給黎尚幸、吉田康浩、濱武大輔、平塚昌文、岩崎昭憲
胸膜肥厚を契機に発見された IgG4関連胸膜炎の一例	第45回日本胸部外科学会九州地方会総会	ハウステンボス 7月21日、2012年	巻幡 聰、今給黎尚幸、米田 敏、白濱 浩、田代幸恵、岩崎昭憲
当院におけるcIA期原発性肺癌に対する区域切除の治療成績	第53回日本肺癌学会総会	岡山、11月8-9日 2012年	今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
完全鏡視下に切除した後縦隔 ganglioneuroma の1例	第25回日本内視鏡外科学会総会	東京、12月6-8日 2012年	今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏
後縦隔原発神経節細胞腫 (ganglioneuroma) の2手術例	第53回日本肺癌学会九州支部学術集会	沖縄、2月22-23日 2013年	今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲

依頼講演

依頼講演	発表	年	演者
肺癌治療における遺伝子検索の重要性	NPO法人かごしま 遺伝子活用普及 協会第8回研修会	6月17日、 2012年	米田 敏

整形外科・リハビリテーション科

整形外科部長 松永俊二

整形外科の平成24年度の活動状況を報告します。平成24年度の整形外科の手術総数は932例と例年並みでしたが重症例の手術が増加しています。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均約118名/日であり昨年度と変化はありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く病院の過去最高数の救急車受け入れに貢献しています。入院患者総数は1,177名で平均稼働率は107.1%で常に満床状態でした。本年度はクリティカル・パスを活用した結果平均在院日数が23.8日と先年度より約10日短縮することが出来ました。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。鹿児島大学の関連病院として今給黎総合病院は整形外科医が勤務したい病院のひとつとして人気が高い病院であります。日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉 9名

今給黎尚典 (理事長)
松永俊二 (整形外科部長)
古賀公明 (整形外科部長)
石田育男 (整形外科部長)
宮口文宏 (整形外科医長)
山口聡 (整形外科専門医)
救仁郷 修 (専門医)
岡 良臣 (専門医)
日高 亮 (研修医)

【人事異動】

入職 2名

吉井理一郎 平成24年4月1日入社
中川路愛弓 平成24年4月1日入社
救仁郷 修 平成24年9月1日入社
岡 良臣 平成24年10月1日入社
山口 聡 平成25年4月1日入社予定
日高 亮 平成25年4月1日入社予定

退職 4名

中川路愛弓 平成24年6月30日退社
前田 悠 平成24年9月30日退社
堀川良治 平成24年8月31日退社
前田 悠 平成24年9月30日退社
東福勝宏 平成25年3月31日退社
吉井理一郎 平成25年3月31日退社

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー

平成24年4月23日 今給黎総合病院大講堂

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック
外来総数32,180名 新患4,436名 1日平均118.3名

今給黎総合病院
外来総数4,492名 新患1,429名 1日平均3.9名

入院総数 1,177名
平均稼働率 107.1%
平均在院日数 23.8日

手術総数 932件

【手術内訳】（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

脊椎（159件）	
後頭頸椎固定術	1
頸椎椎弓形成術	22
頸椎後方固定術	16
頸椎前方固定術	6
軸椎骨折骨接合術	0
胸椎後方固定術	11
胸椎椎弓切除術	2
胸椎前方固定術	9
腰椎後方固定術	18
腰椎開窓術	11
腰椎前方固定	9
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	29
経皮的髄核摘出術	5
椎間板搔爬術	1
体外式脊椎固定術（ハローベスト装着術）	12
仙腸関節固定術	4
硬膜外血腫除去術	1
歯突起骨折	1
CT下生検	1

骨折（436件）	
鎖骨骨折手術	16
上腕骨近位部骨折手術	23
上腕骨外顆骨折手術	5
上腕骨内顆骨折手術	5
上腕骨顆上骨折（含経皮的ピンニング）	18
上腕骨骨幹部骨折手術	12
肩甲骨骨折骨接合術	2
肘関節内骨折手術	5
モンテジア骨折手術	1
橈骨遠位端骨折手術	60
尺骨遠位端骨折	3
橈骨頭骨折手術	1
前腕骨骨折手術	8
舟状骨骨折手術	1
大菱形骨骨折手術	1
手指骨折手術	23
手指骨開放性脱臼整復術	1
骨盤骨折手術	14
股関節脱臼骨折手術	2
大腿骨頸部骨折手術	131
大腿骨骨幹部骨折手術	5
大腿骨顆上骨折	10
大腿骨骨幹部開放骨折	1
膝蓋骨骨折手術	8
脛骨近位部骨折手術	7
下腿骨骨折手術	29
足関節脱臼骨折手術	28
リスフラン関節脱臼骨折	0
踵骨骨折手術	10
足趾骨折手術	6

切断術（7件）	
下肢	7

関節手術（127件）	
指関節形成術	1
肘関節形成術	2

人工股関節置換術	27
人工股関節再置換術	2
人工骨頭置換術	49
骨盤骨切り術	4
膝関節視鏡下滑膜切除術	4
膝関節視鏡下半月板切除術	8
人工膝関節置換術	22
膝前十字靭帯再建術	6
膝後十字靭帯再建術	1
膝外側側副靭帯再建術	1

腱・神経手術（34件）	
アキレス腱縫合術	4
腱縫合術（手）	6
腱鞘切開術	9
神経剥離術	2
肘部管症候群手術	1
手根管開放術	10
神経縫合術	1
血管吻合術	1

腫瘍手術（4件）	
骨軟部腫瘍手術	3
生検術	1

抜釘術（112件）	
その他（59件）	
開放創デブリードマン・創傷処理	48
創外固定術	8
外反母趾手術	1
異物除去術	1
二分膝蓋骨手術	1

感染症手術（7件）	
感染持続洗浄術	4
骨髄炎手術	3

【2012年業績】（平成24年1月1日～12月31日）

【学会発表（国際学会）】

Logistic regression analysis for development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.
Spine Across the Sea Kauai mariott on Kalapaki Beach 2012/8/2 Hawaii
Matsunaga S, Toyama Y, Komiya S

【学会発表（国内学会）】

多椎体分離症の一例
第20回鹿児島スポーツ医学研究会
鹿児島大学医学部鶴陵会館 2012年1月28日
鹿児島
堀川良治、海江田祥、東福勝弘、宮口文宏、古賀公明、松永俊二、

仙腸関節障害に対する高周波熱凝固術の小経験
第39回日本生体電気刺激研究会鹿児島県医師
会館 2012年3月3日 鹿児島
海江田光祥、堀川良治、東福勝宏、
宮口文宏、古賀公明、松永俊二、小宮節郎

慢性骨髄炎に対する抗生剤充填ハイドロオキシア
パタイトの有用性
第51回鹿児島整形外科懇話会 鹿児島大学医学
部鶴陵会館 2012年3月31日 鹿児島
堀川良治、海江田光祥、東福勝宏、
宮口文宏、古賀公明、松永俊二

生物学的製剤の周術期への影響
第43回九州リウマチ学会全労済リュウ
2012年3月10日 大分
砂原伸彦、青木則子、土持兼之、秋元正樹、
有島善也、井尻幸成、大坪秀雄、松永俊二、
小宮節郎、松田剛正

頸椎後縦靭帯骨化における脊髄症状発現危険因子
の解析-無症候患者に対する多施設長期追跡調査-
第41回日本脊椎脊髄病学会
石橋記念文化センター 2012年4月17日 久留米
松永俊二、戸山芳昭、井尻幸成、山元拓哉、
小宮節郎

生物学的製剤使用例における出血リスクの検討
第56回日本リウマチ学会 グランドプリンス
ホテル新高輪 2012年4月26日 東京
土持兼之、砂原伸彦、青木則子、秋元正樹、
有島善也、井尻幸成、大坪秀雄、松永俊二、
小宮節郎、松田剛正

高齢女性骨粗鬆症患者における大腿骨近位部骨折
両側罹患に関する因子解析
第85回日本整形外科学会学術総会京都国際会
議場 2012年5月17日 京都
松永俊二、古賀公明、宮口文宏、東福勝宏、
堀川良治、海江田光祥、石田育男、前田悠、
今給黎尚典、坂元裕一郎、小宮節郎

大腿骨近位部骨折両側罹患発生に関する因子解析
第49回日本リハビリテーション医学会 福岡
国際会議場 2012年6月1日 福岡
松永俊二、小宮節郎、坂元裕一郎

骨粗鬆患者の椎体骨折に脊髄麻痺を合併し除圧。
固定に苦慮した3症例
第78回西日本脊椎研究会 2012年11月16日
福岡
宮口文宏、古賀公明、松永俊二

術前椎間関節嚢腫と「診断し、内視鏡を用いて後
方から摘出した1症例
第124回西日本脊椎研究会 別府国際コンベン
ションセンター 2012年11月17日 別府
救仁郷 修、吉井理一郎、東福勝宏、宮口文宏、
古賀公明、松永俊二、山下芳隆、武富栄二、
田邊 史、石堂康弘、米 和徳、小宮節郎

両側TKA後同時感染の一例
第35回日本骨関節感染症学会 2012年4月28日
鹿児島
石田育男

仙腸関節障害に対する仙腸関節固定術（制動術）
の小経験
第3回日本仙腸関節研究会 2012年11月2日
神戸
救仁郷 修、古賀公明

難治性仙腸関節障害に対するコアマッスルエクサ
サイズの有用性
第3回日本仙腸関節研究会 2012年11月2日
神戸
山崎数馬、古賀公明

仙腸関節性腰痛に対するプリータイプ骨盤ベル
ト有用性
第20回日本腰痛学会 2012年11月3日 神戸
佐藤珠葵、山崎数馬、勝山 誠、古賀公明

仙腸関節障害を合併した腰椎椎間板ヘルニアの2症
例選択的神経根ブロックの罨
第20回日本腰痛学会 2012年11月3日 神戸
古賀公明、堀川良治、宮口文宏、東福勝宏、
吉井理一郎、中川路愛弓、松永俊二

【座長】

臨床Ⅱ 第39回日本生体電気・物理刺激研究会
鹿児島県医師会館2012年3月3日 鹿児島市
松永俊二

主題2第41回日本脊椎脊髄病学会
石橋記念センター 2012年4月19日 久留米
松永俊二

日常診療に生かす頸椎後縦靭帯骨化症のガイドラ
イン
第85回日本整形外科学会学術総会
京都国際会議場 2012年5月19日 京都
松永俊二

骨形成促進剤臨床研究会 座長
『骨粗鬆症治療における骨形成促進剤の有用性に
ついて』
東京女子医大整形外科講師 金谷幸一先生
鹿児島東急ホテル 2012年10月31日
松永俊二

【著書】

Ossification of the Posterior Longitudinal
Ligaments.
Prevalence, Presentation and natural
history. The Cervical Spine 5th Edition
Edward C Benzel P ed., pp 1022-1030, 2012
Lippincott Williams & Wilkins philadel-
phia
Matsunaga S, Sakou T

JOABPEQ JOACMEQを英文雑誌に載せる際（含：
JOABPEQ JOACMEQを翻訳する場合）の注意点
OABPEQ JOACMEQマニュアル 日本整形外科学
会/日本脊椎脊髄病学会診断評価基準委員会編
59-62, 2012 南江堂 東京
松永俊二

【論文その他発表】

Cervical pedicle screw insertion using a gutter entry point at the transitional area between the lateral mass and lamina.

Eur Spine J 21:353-358, 2012
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Combined posterior and delayed staged mini-open anterior short-segment fusion for thoracolumbar burst fractures.

J Spinal Disord tech 25:38-46, 2012
Tofuku K, Koga H, Ijiri K, Ishidou Y, Yamamoto T, Zenmyo M, Yone K, Komiya S.

The use of antibiotic-impregnated fibrin sealant for the prevention of surgical site infection associated with spinal instrumentation.

Eur Spine J. 21:2027-33. 2012
Tofuku K, Koga H, Yanase M, Komiya S.

Subdural spread of injected local anesthetic in a selective transforaminal cervical nerve root block: a case report.

J Med Case Rep. 1:142.
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Facet arthrography in an unusual presentation of a lumbar hemorrhagic synovial cyst.

J Neurointerv Surg. 4(6):e40. doi: 10.1136/neurintsurg-2011-010191. 2012
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Facet arthrography of a cervical synovial cyst.

J Neurointerv Surg. 4(4):e17. doi: 10.1136/neurintsurg-2011-010017. 2012
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Ossification of the posterior longitudinal ligament of the cervical spine.

Etiology and natural history Spine 37:309-314, 2012
Matsunaga S, Sakou T

当院における超高齢者大腿骨近位部骨折両側発生数の年次変化

整形外科と災害外科61:141-143, 2012
坂元 裕一郎、松永 俊二、八尋 雄平、堀川 良治、東福 勝宏、古賀 公明、今給黎 尚典

特集：頸椎後縦靭帯骨化症（OPLL）の医療-頸椎OPLLの治療：疫学と病因

関節外科 31:12-17, 2012
松永俊二

知っていますか？ 整形外科手術の変遷③ 上位頸椎固定術

臨床整形外科 47: 592-596, 2012
松永俊二、酒匂 崇

【講演】

骨粗鬆症診療の最近の進歩

帝人ファーマ社内研修講演
帝人ファーマ鹿児島支店 2012年2月3日
松永俊二

骨粗鬆症診療の最近の革新的変化-治療薬選択を中心として-

大島郡医師会講演会 大島郡医師会館
2012年3月16日
松永俊二

骨粗鬆症形成剤による骨粗鬆症治療-多施設臨床データの集積を目指して-

鹿児島骨形成剤臨床使用研究会
ホテル京セラ 2012年4月12日
松永俊二

リハビリ診療における骨粗鬆症の重要性

今給黎総合病院リハビリテーション科
教育講演今給黎総合病院リハビリ室
2012年7月18日
松永俊二

骨粗鬆症最近の話題-治療薬選択を中心として-

沖永良部医師会学術講演
おきえらぶフローラホテル 2012年9月21日
松永俊二

骨粗鬆症最近の話題-治療薬選択を中心として-

LIFT in 大隅学術講演
鹿屋大黒グランドホテル 2012年10月18日
松永俊二

骨粗鬆症治療の新展開-骨粗鬆症形成促進剤の登場とその臨床

LIFT in 南薩学術講演 加世田医師会館 2012年10月22日
松永俊二

急性期病院における整形外科手術と疼痛管理

アステラス製薬社内講演
鹿児島商工会議所 2012年11月15日
古賀公明

形成外科

形成外科部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚,1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。体表に関しては、生まれつきの疾患(口唇裂、口蓋裂、耳の奇形、手や足の指の奇形、あざ)や、後天性の疾患(腫瘍、外傷等)を取り扱っております。とくに生まれつきの疾患である口唇口蓋裂に関しては、平成23年4月より口唇口蓋裂診療班が発足し、集学的な治療が行えるようになりました。また、体表だけではなく神経、血管を顕微鏡でつなぎ合わせる機能的な再建(指の切断、重要な神経の断裂)、顔面骨折や悪性腫瘍切除後の欠損等の深部の治療も積極的に行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介 (たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会、

日本美容外科学会、日本美容医療協会、
日本褥瘡学会、日本マイクロサージャリー学会、
日本臨床皮膚外科学会、日本創傷外科学会、
日本血管腫・血管奇形研究会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

信太 薫 (しだ かおる)

2003年、佐賀大学医学部卒業

2005年4月昭和大学形成外科学教室入局

千葉大学病院

日立総合病院(茨城)

鶴岡市立庄内病院(山形)勤務

2012年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本口蓋裂学会、日本再生医療学会、
日本創傷外科学会、日本褥瘡学会

小坂 健太郎 (こさか けんたろう)

2010年 千葉大学医学部卒業

2010年4月～2012年3月、臨床研修医

2012年4月 千葉大学形成外科学教室入局

2013年4月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会

非常勤医師

門松 香一 (かどまつ こういち)

昭和大学形成外科 講師

有村 和子 (ありむら かずこ)

泉 朝望 (いずみ あさみ)

歯ならびの歯医者さん 院長

【診療状況（2012年1月～12月）】

外来診療

外来初診患者数	1,316名
外来手術件数	491件
外来延べ人数	8,248名

入院診療

入院患者数	451名
入院手術件数	531件

【手術件数】

外傷	185件
先天異常	39件
腫瘍	631件
癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	47件
難治性潰瘍	57件
炎症・変性疾患	59件
美容	4件
その他	0件

顔面骨骨折	72件
切断（指、四肢）再接合	20件
四肢再建（有茎皮弁、遊離皮弁）	33件
皮膚良性腫瘍	530件
皮膚悪性腫瘍	74件
悪性腫瘍再建	27件
眼瞼下垂	32件
血管奇形硬化療法	20件
耳下腺腫瘍	15件
顔面神経麻痺	9件

【学会活動】

難治性潰瘍に対する新しいアプローチ-CGF
(Concentrated Growth Factors) 療法-
第55回日本形成外科学会総会・学術集会
2012年4月12日 東京
高木信介

皮膚欠損創に対する circle-to-W flap による再建
第55回日本形成外科学会総会・学術集会
2012年4月13日 東京
石垣達也

生体吸収性メッシュプレート (Lactosorb®) を用
いて手術を行った眼窩骨折 16 例の検討
第15回九州昭和大学同門会学術集会
2012年1月14日 宮崎
加治佐卓也

Free vascularized fibular onlay graft を用い
た二期的慢性大腿骨骨髓炎の治療経験
第15回九州昭和大学同門会学術集会
2012年1月14日 宮崎
石垣達也

難治性潰瘍の新しい治療法

-Concentrated Growth factors 療法-
第15回九州昭和大学同門会学術集会
2012年1月14日 宮崎
高木信介

原子力発電所の減圧作業中に多発発生した Elec-
tric flame burn の治療経験
第22回日本熱傷学会九州地方会
2012年2月25日 佐賀
石垣達也

足関節部に発生した著名な石灰化を伴う血管平滑
筋腫の1例
九州支部学術集会第88回例会 2012年3月10日
博多
加治佐卓也

Adipofascial flap、遊離脂肪移植により一期的指
間分離を行った基節型骨性合指の1例
九州支部学術集会第88回例会 2012年3月10日
博多
高木信介

【論文発表】

吸収性メッシュプレートを用いた眼窩下壁骨折の
治療経験
徳元英樹
形成外科 55(7), 767-773, 2012年07月10日

足関節部に発生した著名な石灰化を伴う血管平滑
筋腫の1例
有村和子
形成外科 55(5), 545-549, 2012年05月10日

石灰化を伴い手掌深部に発生した血管平滑筋腫の
1例
加治佐卓也
整形・災害外科 55(9), 1157-1160
2012年08月01日

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校
2012年4月～6月 毎週火曜日
形成外科について
高木信介、加治佐卓也

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設され微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年、頸動脈ステント留置術は県内でも最も良好な治療成績を上げている施設の一つです。脳血管内治療を行うには高性能の脳血管造影装置（DSA）必要ですが、平成22年末に最新式の装置へと更新が行われました。現時点では鹿児島で最高レベルの画質が得られ、更に精度の高い安全な治療が可能となっています。

また、脳動脈瘤のクリッピング術や脳腫瘍摘出術などの開頭手術にも積極的に対応しており、この平成24年3月には手術用顕微鏡も蛍光血管撮影の行える最新式に更新も行いました。開頭手術、脳血管内治療の両者を患者さんの状況に応じて最適な方法を選択し、より良い治療成績を目指しています。

当院は年間2700台の救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者さんが多いのが特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。また、当院は癌拠点病院の指定も受けており癌の脳転移への対応を依頼されることも多く摘出手術、生検術、定位的放射線治療などで協力しています。神経内科からは脳腫瘍、脳血管狭窄のみならず脳や脊髄の生検術の依頼や、形成外科とは協同で頭蓋骨や頭皮の形成術などもあり積極的に対応して行く方針です。

【人事・スタッフ】

今年は1月から専門医である松邨先生が加世田病院から赴任され久しぶりに3人体制となりました。しかし4月から河井先生は専門医取得を目指し大学に移動となり再び二人となってしまいました。とは言え二名ともにベテランの専門医であり戦力的にはかなり充実しました。松邨先生は毎週月曜日の病院全体の救急受け入れ担当となり、脳神経外科領域のみならず広い領域に亘る多数の救急患者の受け入れに貢献してくれました。その結果、脳神経外科の手術件数も82件から118件と50%近い増加となりました。脳神経外科医一人当りの

手術件数としては近隣の病院と比較すると多い状態です。病院規模や救急車の搬入台数、手術件数から言って3名体制は必要な状況でありますので、今後も大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

頸動脈ステント留置術実施医

鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、日本脳卒中学会、脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本小児脳神経外科学会、日本脳神経外科コンGRESS、脳ドック学会他

【医員】

松邨 宏之（平成24年1月～）

1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンGRESS、脳卒中の外科学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳

鹿児島大学脳神経外科教授

平野 宏文

鹿児島大学脳神経外科講師

寺田 耕作

串木野脳神経外科センター

【診療実績】入院患者疾患別分類（2012年1～12月）

脳腫瘍	グリオーマ	1
	髄膜腫	6
	下垂体腺腫	2
	転移性脳腫瘍	4
	合計	13

小児神経外科	水頭症	1
	二分脊椎	0
	狭頭症	1
	その他	0
	合計	2

血管病変	クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）	15
	クモ膜下出血（原因不明）	1
	未破裂脳動脈瘤	13
	AVM / AVF	8
	高血圧性脳出血	32
	脳梗塞	13
	血管腫	1
	動脈狭窄（閉塞）	22
	モヤモヤ病	5
	その他	3
	合計	113

脊椎・脊髄疾患	腫瘍	0
	脊椎症・ヘルニア	0
	その他	2
	合計	2

機能的脳神経外科	顔面痙攣	0
	三叉神経痛	0
	てんかん	6
	不随意運動	0
	その他	0
	合計	2

慢性硬膜下血腫	合計	21
---------	----	----

頭痛	合計	2
----	----	---

頭部外傷	頭蓋骨骨折	1
	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	10
	脳挫傷	25
	その他	20
	合計	59

感染症	脳膿瘍	1
	髄膜炎	1
	その他	2
	合計	4

その他	合計	10
-----	----	----

合計	232人
----	------

【手術症例】（2012年1～12月）

開頭術	腫瘍	全摘出術 / 亜全摘	5
		部分摘出術	1
		合計	6
	動脈瘤	クリッピング(破裂)	4
		クリッピング(未破裂)	3
		合計	7
	動静脈奇形 / 血管腫	全摘出術	1
	血管吻合術	直接的血管吻合術	2
	開頭血腫除去術	脳内血腫	4
		硬膜外血腫	1
		硬膜下血腫	1
合計		6	
減圧開頭手術		3	
合計	25		

穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	33
	定位的血腫吸引術	8
	脳室ドレナージ	1
	脳膿瘍排膿術	1
	合計	43

短絡術	V-P シヤント	1
	V-P シヤント再建術	1
	その他	6
	合計	8

定位脳手術	定位的血腫吸引術	4
-------	----------	---

頭蓋骨形成術	6
--------	---

脊髄手術	1
------	---

穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	33
	定位的血腫吸引術	8
	脳室ドレナージ	1
	脳膿瘍排膿術	1
	合計	43

血管内手術	動脈瘤 coiling	4
	血管形成術 (PTA)	3
	血管形成術 (STENT)	9
	その他	9
	合計	25

合計 118件

産婦人科

産婦人科部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は産科・婦人科一般の診療を行っております。当院は鹿児島県の周産期医療システムを担う病院として、産科は早産等のリスクのある妊娠・分娩管理を行っております。また1次施設からの母体搬送や3次施設で状態の安定した妊婦さんの受け入れも行っております。婦人科は子宮癌検診や良性・悪性の婦人科疾患のみならず、下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行っております。

【人事・スタッフ紹介】

平成24年5月31日まで宮崎大学から西村美帆子医師が派遣されておりましたが、折からの産婦人科医師不足に伴い派遣終了となり、6月1日より私加藤が新生児内科より異動となりました。また鹿児島市立病院産婦人科より平成24年度は4カ月交代で宮崎ももこ医師、松本純医師、荒木梢医師を派遣して頂き、3名体制で診療を行うことが出来ました。

病棟スタッフは病床19床に対し助産師17名、看護師4名です。病棟スタッフは看護をより充実したものにするために様々な研修や資格を取得しておりましたので以下に記します。

新生児蘇生法「専門」コース修得

酒匂英子、栄多陽子、根元すがえ、香妻咲子、鮫島元子、松永いづみ、西上原えみ、本田里美、鎌田文子、古賀千恵美、末増枝里子、岡本朋子

新生児蘇生法「一次」コース修得

中原梨江子

ベビーマッサージ

ロイヤルセラピスト協会（初級ベビーマッサージセラピスト養成講座）

酒匂英子、栄多陽子

マタニティフィットネス協会 ベビービクスインストラクター

中原梨江子

骨盤ケア（母子整体研究会（旧）入門コース）

根元すがえ、香妻咲子、税所克代、西上原えみ、本田里美、田口愛子

オステオパミー・ソフト整体セミナー 入門コース・基礎コース終了

鮫島元子

アロマ

アロマ検定1級 アロマセラピーアドバイザー

末増枝里子

ヨガ

日本マタニティヨーガ協会 インストラクター認定

西上原えみ、本田里美、中原梨江子

【診療状況】

外来患者数 3,318人
入院患者数 523人

分娩件数 125 (含帝王切開)

手術件数

帝王切開	54
単純子宮全摘術	15
円錐切除術	15
付属器切除術	13
卵巣嚢腫摘出術	11
子宮内容除去術	6
妊娠中絶 (12w未満)	2
子宮外妊娠手術	2
子宮筋腫核出術	4
拡大単純子宮全摘術・ 両側付属器切除術・大網切除術	3
単純子宮全摘術・両側付属器切除術	3
拡大単純子宮全摘術	2
広汎子宮全摘術	1
その他	10

【講義・院外活動等】

加藤明彦 久木田学園看護専門学校 看護科講義 (母性看護学、女性生殖器) 40時間

学会発表

離島への長期支援を経験して～離島で学んだ助産師としての役割～

第25回鹿児島県母性衛生学会

2012年8月17日

本田里美 栄多陽子 酒匂英子

【平成 25 年度の計画】

寺原賢人、加藤明彦、田平達則の3名で診療を行って参ります。当院の各診療科、鹿児島市立病院、鹿児島大学病院と連携をとりつつ診療を行って参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

新生児内科

新生児内科部長 丸山有子

【診療内容】

- ・ 当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、Late Preterm Babyの管理、Preterm BabyのGrowing CareおよびFamily Careを担当しています。
- ・ 外来業務として、新生児フォローアップ外来がありますが、当院NICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。

【診療の担当】

- ・ NICU・GCUは、以前より新生児科と産婦人科の医師で診療をおこなってきました。今年も新生児内科の丸山、加藤明彦先生と産婦人科部長の西村美帆子先生の3名で診療をスタートしましたが、5月に西村美帆子先生が退職され、それを機に加藤明彦先生が産婦人科部長とされました。そのため6月以降は鹿児島市立病院新生児科から2ヶ月交代で1名の先生が着任されることになり、6-7月は佐藤恭子先生、8-9月内藤喜樹先生、10-11月は樺山千佳先生、12-1月は山本将功先生、2-3月は平川英司先生が着任され、丸山との2人体制で日々の診療を行いました。
- ・ フォローアップ外来は、金曜日には鹿児島市立病院の佐藤恭子先生も来てくださり、2人体制で行いました。
- ・ 夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科と鹿児島大学産婦人科の医師により行われました。
- ・ 看護スタッフは、平成24年12月現在、35名（保健師4名、助産師3名、看護師28名）、専任作業療法士1名でした。
- ・ ハイリスク児の発達検査（新版K式発達検査）のために、鹿児島市立病院より吉永明美臨床心理士に来ていただいています。（月2～5回）
- ・ 療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。（月1回）
- ・ 毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に示しています。表2は、入院経路別入院児数です。鹿児島市立病院からの新生児搬送は昨年度より微増傾向にありましたが、今年度はさらに増加して118名（68%）でした。表3に示すごとく、平成19年より急に増加した人工呼吸管理施行例数ですが、24年度も53例となっています。

【外来状況】

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けています（表4）。

* 新生児フォローアップ外来・シナジス外来

平成24年の年間受診者数はのべ1,641名でした。シナジス外来を利用した児は196名で毎月1回の投与を受けました。

* 発達検査

平成24年は70名が受けました。

* 療育相談外来

月1～2人ずつ行い、24年度は14名が受けました。

【入院児総数】

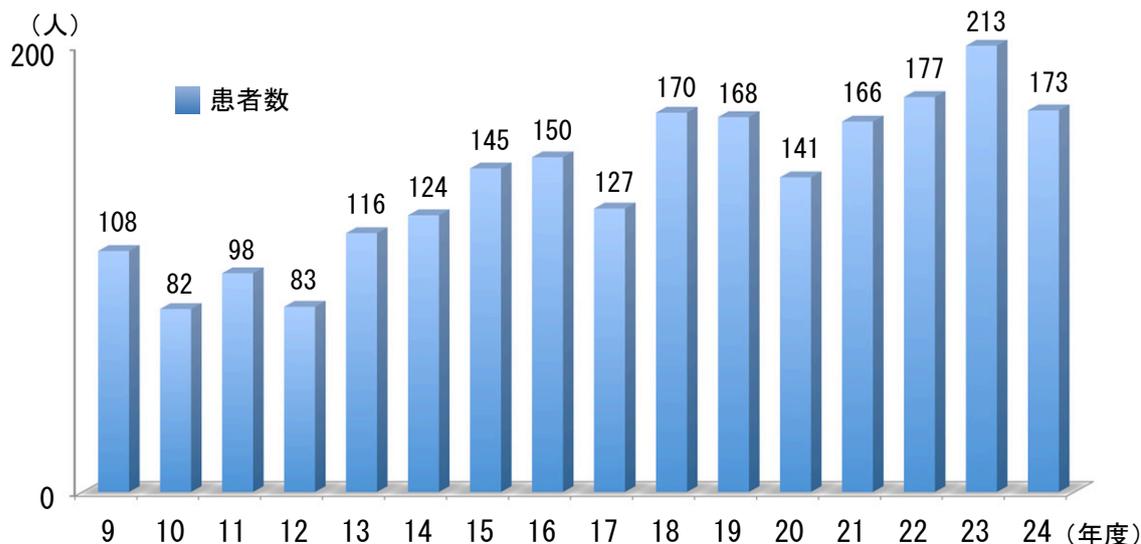


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3	2	8	19
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26	40	34	43
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46	49	68	53
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52	46	59	42
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37	40	44	15

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29	28	36	17
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39	47	43	20
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66	80	105	118
大学よりgrowing care入院											3	3	6	1	9	9
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	13	23	24	21	20	9
院内出生率 (%)	32	33	16	33	45	30	28	19	25	34	46	36	41	42	37	10

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12	44	33	49
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13	13	11	4
人工呼吸管理施行数	10	5	4	9	8	10	9	6	6	13	36	38	25	57	44	53

表 4 : 【フォローアップ外来+シナジス外来のべ受診者数】

年度 (平成)	19	20	21	22	23	24
のべ人数 (人)	307	684	770	890	1219	1641

【地域連携活動】

* 地域保健師と家族の面談を企画

以前より、ハイリスクな児が地域へ退院する際には地域の担当保健師へ情報を提供してきましたが、最近では、NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。22年度は18例のご家族が入院中に保健師面談を受けましたが、23年度は36例、平成24年は61例と増加してきています。

* 会議への参加

- 1) 鹿児島県子どもの虐待予防研究会
(2012年5月17日)
丸山 有子、古川 秀子、原田 純子、
同免木 直美
- 2) 鹿児島県子ども在宅推進委員会
(2012年3月、6月、9月、12月)
古川 秀子
- 3) 鹿児島県子ども在宅推進委員会研修会
(2012年9月29日)
原田 純子、坂口 梨沙
- 4) 権限移譲に係る事務の市町説明会及に健やかな妊娠・出産のための地域支援検討会
(2012年11月2日)
古川 秀子、原田 純子
- 5) 第1回小児訪問看護情報交換会
(2012年12月15日)
原田 純子
- 6) 母子保健連絡会議 (2012年12月20日)
原田 純子
- 7) 第1回子どもすこやか安心ねっと事業調整会議
(2012年12月20日)
原田 純子、同免木 直美、重信 美智子、
西田 雅子、榎満 香織、梅木 真澄、中村 環

【いろいろな活動】

* PIPC(早産児の両親学級)

19回開催し、162人の方が聴講してくださいました。

* スタッフのための勉強会

- ・ 月曜レクチャー：27回開催
- ・ 茨 聡先生によるレクチャー：合計11回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
- ・ NCPR シュミレーション：年間8回施行。
- ・ 看護師・作業療法士による勉強会：19回

* NCPR (院内向け)

- ・ 第1回NCPR講習会 (2012年8月26日)
インストラクター
丸山有子、加藤明彦、有村こずえ、原田純子
受講者7名 (産科3名 NICU4名)

* 院外教育活動

- ・ 加藤明彦：久木田学園看護専門学校 看護科
(母性看護学・女性生殖器) 40時間
- ・ 丸山有子：南学園 鹿児島医療福祉専門学校看護学科 疾病論VI(母性 正常・異常) 15時間

* 施設見学・実習の受け入れ

- 1) 施設見学：九州新生児集中ケア認定看護師会
8名
- 2) 実習：久木田学園看護専門学校 3年17期生
40名

【講演】

専門医の立場から
鹿児島県医師会主催
公開講座「いのちみつめて」医師の使命と責任
シンポジウム「進路選択をどう考えるか」
2012年7月21日
丸山 有子

光線療法中の看護
平成23年度宮崎県産婦人科病院医療従事者研究会 (第16回ひむかセミナー) 2012年3月3日
古川 秀子

低出生体重児のフォローアップ外来の現状と今後の展望 ~地域支援とのよりよい連携~
平成23年度健やかな妊娠・出産支援事業研究会 2012年3月6日
古川 秀子

低出生体重児の育児支援と地域への支援について
平成24年度ハイリスク母子保健訪問研修会
2012年9月4日
古川 秀子

医療と保健が連携した低出生体重児への具体的な支援について

権限移譲に係る事務の市町説明会及に健やかな妊娠・出産のための地域支援検討会
古川 秀子

【学会発表】

始良市の乳児ゆさぶり事件；虐待予防対策を試みた事例から

虐待問題研究会 2012年5月15日
丸山 有子、加藤 明彦、古川 秀子、原田 純子、同免木 直美

鹿児島県における超早産児の就学猶予

第29回フォローアップ研究会
2012年6月3日 長野
丸山 有子、吉永 明美、奈須 康子、中村 環、茨 聡

退院指導の栄養に関する見直し後の評価
第5回鹿児島県保健看護研究学会 2012年1月20日
山下 奈津紀

当院における出生後早期の体温管理の現状と課題
～Late Preterm児の体温管理を考える～ 第2報
第14回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
2012年2月16日 長野
戸高 かおる

予定日前後のGMsと運動発達予後の関係
第60回九州新生児研究会 2012年5月26日 福岡
中村 環

地域との連携における3次施設と2次施設の協働
～NICUにおける保健師 - 家族面談に関するアンケート結果より～
第22回日本新生児看護学会学術集会
2012年11月25日26日 熊本
原田 純子

【受賞】

丸山有子
第34回母子保健奨励賞受賞 2012年11月21日

小 児 科

小児科部長 玉 田 泉

【診療内容・特徴】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の3名が常勤で、堀之内泉医師が非常勤で診療いたしました。一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めているいは検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又新生児マススクリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。内分泌疾患の負荷試験など外来でも実施する機会が増えてきました。スタッフは大変ですが、専門性を生かして貢献できればと思います。

入院患者さんは地域の開業の先生方からの紹介もあり比較的軽症の短期の入院が多いですが、当院で可能な限り受け入れていけたらと考えています。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後4年が経過し順調に運営しています。子育て世代の職員のバックアップのため今後も充実させていきたいと思っています。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医、
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師、放送大学講師
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員
鹿児島県立短期大学 非常勤講師

堀之内兼一：小児科専門医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師

European Univ.Vandrina 非常勤講師（漢方の講義）

玉田 泉：小児科専門医
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 14,413 人
入院患者実数 192 人

【診療実績】

入院疾患（延べ人数）
急性気管支炎・肺炎 78 人
内分泌疾患（成長ホルモン検査・糖尿病を含む） 40 人
急性胃腸炎 19 人
急性上気道炎・中耳炎 10 人
リンパ節炎・川崎病 6 人
心身症（不登校など） 5 人
熱性けいれん・てんかん 5 人
腎疾患（HSP、AGNなど） 4 人
髄膜炎（疑い含む） 2 人
その他 9 人

全体として入院数が少なかったようです。喘息を主病名としての入院はゼロでした。外来加療でコントロール可能となっていることの現われと思います。

【院外活動 / 講演会 学会活動など】

銚之原昌

- ・鹿児島子どもの虐待問題研究会、開催（年6回）
 - ・鹿児島県膠原病研究会 開催（年2回）
 - ・1/22児童虐待防止シンポジウム 開催
 - ・NPO法人子ども医療ネットワーク 役員として活動
 - ・6/17鹿児島文化サロン 委員として開催参加（年3回）
 - ・8/16鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員として参加
 - ・8/21度鹿児島県保育所乳児保育研修会
講演「乳児保健の意義と役割」
 - ・9/12南日本子ども健康セミナー 育児相談など
 - ・8/19日本小児保健協会学術集会役員として出席
- 堀之内 兼一

- ・ 11/15~17第15回日本補完代替医療学会
理事として参加
- ・ 11/17小児科領域の漢方 学術講演会 座長

玉田 泉

- ・ 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」
指導医、年に2回定例会
- ・ 1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、年に2回
定例会参加
- ・ 鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、年
12回審査会

・ 学会発表

3歳で発症した原発性副腎不全の1男児例
第46回日本小児内分泌学会学術集会
2012年09月27-29日 大阪
玉田 泉、溝田美智代、大坪喜代子、八牧愉二

急性白血病診断時の骨髄検査で Turner 症候群が判
明した 2 例

第46回日本小児内分泌学会学術集会
2012年9月27-29日 大阪
八牧愉二、溝田美智代、檜作和子、
玉田 泉、大坪喜代子、大竹山令奈、
上野 さやか、河野嘉文、森田 智

生物学的製剤は若年性特発性関節炎 (JIA) のQOLを
改善したか? (2) -PedsQLを用いた検討 全国調査
第59回日本小児保健学会 2012年9月28日
岡山市
大迫由紀、武井修治、山下早苗、野中由希子、
赤池治美、銚之原 昌

生物学的製剤導入後の関節破壊の進行一手根骨長
による risk factor の検討。

第22回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2012年10月05-07日 名古屋市
久保田知洋、山遠 剛、山崎雄一、野中由希子、
前野伸昭、嶽崎智子、赤池治美、今中啓之、
銚之原 昌、武井修治

生物学的 (Bio) 製剤がもたらす若年性特発性関節
炎 (JIA) 患児の生活機能の変化

第22回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2012年10月05-07日 名古屋市
野中由希子、久保田知洋、久保田知洋、
山崎雄一、赤池治美、山遠 剛、嶽崎智子、
大迫由紀、根路銘安仁、今中啓之、
銚之原 昌、武井修治、河野嘉文

A 群レンサ球菌感染後反応性関節炎の 2 症例
第22回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2012年10月05-07日 名古屋市
中江広治、久保田知洋、山遠 剛、
山崎雄一、長倉智和、野中由希子、
前野伸昭、嶽崎智子、赤池治美、今中啓之、

銚之原 昌、武井修治。

食事制限により低 Ca 血症性くる病を発症した男児例
第12回日本内分泌学会九州地方会
2012年08月25日 福岡
八牧愉二、玉田 泉、大竹山令奈、大坪喜代子、
溝田美智代、河野嘉文

食事制限により低 Ca 血症性くる病を発症した男児例
第151回日本小児科学会鹿児島地方会
2012年10月14日 鹿児島
八牧愉二、玉田 泉、大竹山令奈、
大坪喜代子、溝田美智代、河野嘉文。

頭蓋咽頭腫術後に脳性塩喪失症候群と中枢性尿崩
症を発症した 1 例

第17回鹿児島県小児内分泌研究会
2012年10月27日 鹿児島
八牧愉二、中江広治、玉田 泉、
大坪喜代子、溝田美智代、河野嘉文

-3 SD の低身長と IGF-1 低値が持続するが GH 分泌
正常の 1 例

第17回鹿児島県小児内分泌研究会
2012年10月27日 鹿児島
小木曾文乃、玉田 泉、八牧愉二、
溝田美智代、大坪喜代子

・ その他

平成24年3月3日、平成24年8月1日には医師会主催
のこども予防接種週間に参加して予防接種業務を
行いました。

【平成 25 年度計画】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、
玉田泉で引き続き診療にあたります。

泌尿器科

泌尿器科部長 立和田得志

平成24年4月より、中目康彦、立和田得志、水間浩平、米森雅也、西山賢龍（非常勤：月のみ）で診療しています。

外来患者数は1日50人前後、入院は20人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当しています。再診の方は原則予約制でできるだけ待ち時間のないようにしています。

当院はCT検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで維持透析は行っていません。基本的に月、水、金の週3回です。

手術は低侵襲手術（できるだけ体に負担のならない手術）に力をいれています。腎、副腎疾患に対しては、可能な限り腹腔鏡下で行っています。局限性前立腺癌に対しては小切開手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）まで行っており、早期退院（術後1週間前後）が可能になっています。経尿道的手術から骨盤内臓器脱手術（TVM法）、尿失禁手術（TOT法）まで幅広く治療を行っております。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦
日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

水間 浩平
日本泌尿器科学会専門医

部長 立和田 得志
日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

米森 雅也
日本泌尿器科学会専門医

【2012年4月～2013年3月手術統計】

分類	手術	件数
腎臓 ・ 副腎 ・ 尿管	腹腔鏡下根治的腎摘除術	6
	開腹根治的腎摘除術	2
	腹腔鏡下副腎摘除術	1
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	10
	開腹腎尿管全摘除術	1
	腎部分切除術(小切開で施行)	6
	経尿道的尿管結石碎石術	12
	尿管鏡検査	9
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術	76
	根治的膀胱全摘術 +代用膀胱造設術	2
	根治的膀胱全摘術 +尿管皮膚瘻造設術	1

分類	手術	件数
前立腺	根治的前立腺全摘術(小切開で施行)	42
	腹腔鏡下前立腺全摘術	3
	密封小線源療法	56
	経尿道的前立腺切除術	55
陰茎 ・ 陰囊 ・ 精巣	陰茎部分切除術	2
	環状切開術	2
	陰囊水腫根治術	3
	高位除辜術	2
	精巣固定術	1
尿道	TVM(骨盤内臓器脱手術)	10
	TOT(尿失禁手術)	6
	内尿道切開術	5

眼科

眼科部長 薄井 隆宏

平成24年度の3月に前部長の北村先生が医局を辞められ、薄井が昭和大学藤が丘より4月に赴任し、高橋先生は3月に大学に帰られて、残った禅野先生と4月から2人体制で診療、手術などの業務をしておりました。10月から鹿児島大学から大井先生が赴任され、元通りの3人体制となりました。

【特色】

当科は伝統的に白内障の難治症例の紹介が多く、網膜硝子体手術も行い、手術件数は県内でも多いほうです。昭和大学だけでなく鹿児島大学とも連携を図り、地域医療に貢献したいと考えています。

【スタッフ紹介】

薄井 隆宏（うすい たかひろ）

2000年北里大学医学部卒業

〈取得資格〉

医学博士（昭和大学）

日本眼科学会専門医

〈所属学会〉

日本眼科学会

日本眼内レンズ屈折手術学会

日本眼科手術学会

大井 誠一郎（おおい じょういちろう）

2005年帝京大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会

友寄 英土（ともより えいじ）

2009年昭和大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会

スタッフは、看護師の川崎、川口、検査は視能訓練士の上村、川畑、藤島、他に木之下、鶴之園、鳥原、園中（産休）、受付は赤塚、泊で行っております。

【診療状況】

外来新患者数 1,537名
外来再診数 10,625名

入院患者数 573名

【手術件数】

白内障手術 602件
眼内レンズ縫着 19件
緑内障手術 9件
網膜硝子体手術（網膜剥離含む） 64件
硝子体注射 70件
その他内眼手術 6件
眼瞼下垂手術 14件
眼瞼内反症手術 1件
翼状片手術 15件
その他外眼手術 9件

合計 809件

【講義】

久木田学園看護専門学校

病態学IV 眼科系 薄井 隆宏

2012年9月 毎週金曜

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓 夫

【平成24年手術実績】（1月～12月）

手術件数合計：338件

a) 耳科領域 35件（悪性1件）

鼓室形成術	12件
鼓膜形成術	8件
先天性耳瘻孔手術	4件
鼓膜チューブ留置術（全麻）	4件
外耳道異物	2件
外耳道形成術	1件
耳硬化症手術	1件
外リンパ瘻手術	1件
中耳癌手術	1件
鼓膜切開術（全麻）	1件

e) 顔面・頸部領域 18件（悪性4件）

耳下腺腫瘍摘出術	7件
唾石（顎下腺摘出）	4件
頸部リンパ節摘出	3件
顎下腺腫瘍手術	1件
頸部のう腫摘出術	1件
頸部腫瘍摘出術（良性）	1件
頸部郭清術	1件

b) 鼻科領域 154件（悪性0件）

鼻内副鼻腔手術ESS	67件
鼻中隔矯正術	50件
下鼻甲介切除術	24件
術後性頬部嚢腫手術	7件
後鼻孔鼻たけ手術	2件
上顎洞異物	1件
鼻涙管手術	1件
鼻たけ切除（全麻）	1件
鼻腔腫瘍摘出	1件

a) 唾液腺	4例
b) 舌癌	2例
c) 中耳癌	1例

【平成24年度頭頸部悪性腫瘍症例】

【主催学会】

鹿児島集談会は休会中

【講義】

鹿児島大学医学部学生への臨床実習
久木田学園看護専門学校

c) 口腔・上中咽頭領域 120件（悪性2件）

口蓋扁桃摘出術	100件
アデノイド切除術	11件
咽頭腫瘍摘出術	3件
口蓋扁桃切除術	2件
舌癌、舌部分切除	2件
舌小帯短縮症手術	1件
口唇のう腫手術	1件

d) 喉頭・気管・食道領域 11件（悪性0件）

喉頭ポリープ切除術	5件
喉頭肉芽腫切除	3件
気管切開術	2件
喉頭全摘術	1件

皮膚科

皮膚科部長 指宿敦子

平成24年4月から指宿敦子が、11月から川上延代が担当しました。

【診療内容・特徴】

診療内容は、興味、関心、専門で力点を变えず、かたよることなく、皮膚疾患全般にもれなく対応することをモットーに診療しています。外来・入院状況は図表にまとめて示しました。

【スタッフ紹介】

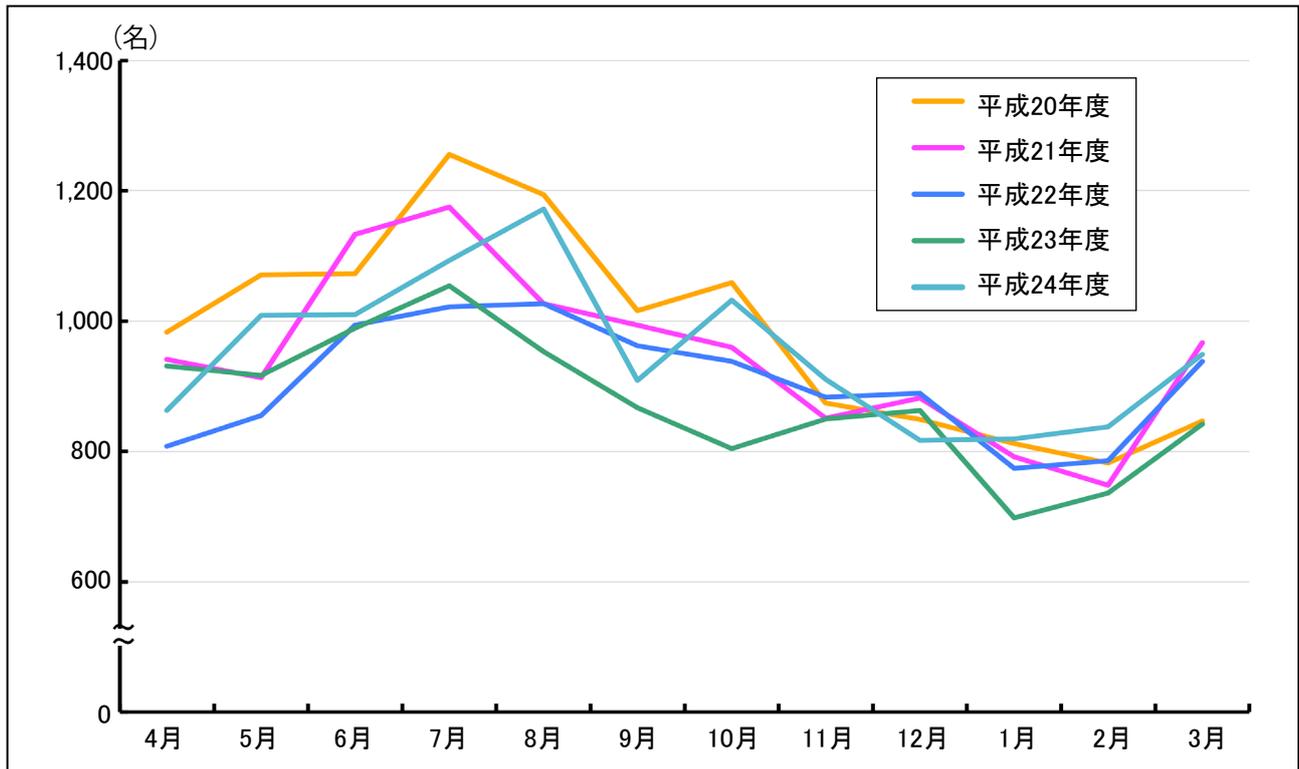
指宿敦子（部長）
 〈所属学会〉
 日本皮膚科学会

川上延代（平成24年11月より交代）
 〈資格 他〉
 皮膚科専門医、医学博士
 〈所属学会〉
 日本皮膚科学会
 日本美容皮膚科顎下

【外来入院患者数の最近5年間の動態】

	平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			
	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	
4月	983	6	45	941	3	26	808	6	105	931	7	120	863	3	31	
5月	1,071	4	55	913	4	40	855	6	117	917	7	80	1,009	8	74	
6月	1,073	3	42	1,133	6	66	994	14	154	989	9	81	1,010	10	47	
7月	1,256	8	47	1,175	8	119	1,022	16	201	1,054	9	143	1,093	10	107	
8月	1,194	5	47	1,027	9	101	1,027	10	117	953	1	9	1,172	8	107	
9月	1,016	7	88	994	9	158	962	13	174	867	1	33	909	6	23	
10月	1,059	5	45	960	8	147	938	9	163	804	5	35	1,032	12	127	
11月	874	2	20	851	5	56	883	12	165	850	1	19	911	13	103	
12月	849	4	40	882	7	174	889	12	161	863	5	65	817	3	80	
1月	812	4	34	792	7	71	774	10	173	698	4	24	819	6	64	
2月	782	9	65	748	6	57	786	12	137	736	2	31	838	6	84	
3月	847	5	56	967	5	54	938	9	169	842	2	45	949	4	116	
計	11,816	62	584	11,383	77	1,069	10,876	129	1,836	10,504	53	685	11,422	89	963	
外 来	初診	2,949			3,044			2,838			2,585			2,805		
	再診	8,867			8,339			8,038			7,919			8,617		
紹介患者数	166			200			190			190			236			

【外来患者数動態グラフ（5年間）】



麻 酔 科

麻醉科部長 池田 耕 自

当院における麻醉科の診療内容は手術麻醉、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻醉科の陣容は、5名の麻醉科常勤医と非常勤医3名から6名（週一回勤務）体制でした。さらに卒後研修医3人の研修を行いました。

平成24年度の今給黎総合病院における麻醉科管理症例数は2458件でした。この内、緊急手術は221件（時間外116件）であり全体の8.6%（4.5%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻醉件数は、整形外科781件（31.8%）、耳鼻咽喉科269件（10.9%）、外科318件（12.9%）、泌尿器科249件（10.1%）、産科婦人科140件（5.7%）、形成外科287件（11.7%）、呼吸器外科167件（6.8%）、歯科口腔外科184件（7.5%）、眼科22件（0.9%）、脳神経外科41件（1.7%）、といった現状でした。

麻醉症例内訳	
総症例数（緊急）	2,458 (221)
全身麻醉	1,508
全麻＋硬麻等	338
脊麻・硬麻等	586
伝達麻醉	11
その他	15

【各科別麻醉依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	781 (31.8)	63
耳鼻咽喉科	269 (10.9)	10
外科	318 (12.9)	67
泌尿器科	249 (10.1)	4
産科婦人科	140 (5.7)	42
形成外科	287 (11.7)	25
呼吸器外科	167 (6.8)	1
歯科口腔外科	184 (7.5)	0
眼科	22 (0.9)	0
脳神経外科	41 (1.7)	9
その他	0	0

※麻醉科管理症例年次推移は次頁

【ICU】

平成24年度のICU入室件数は611件でした。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

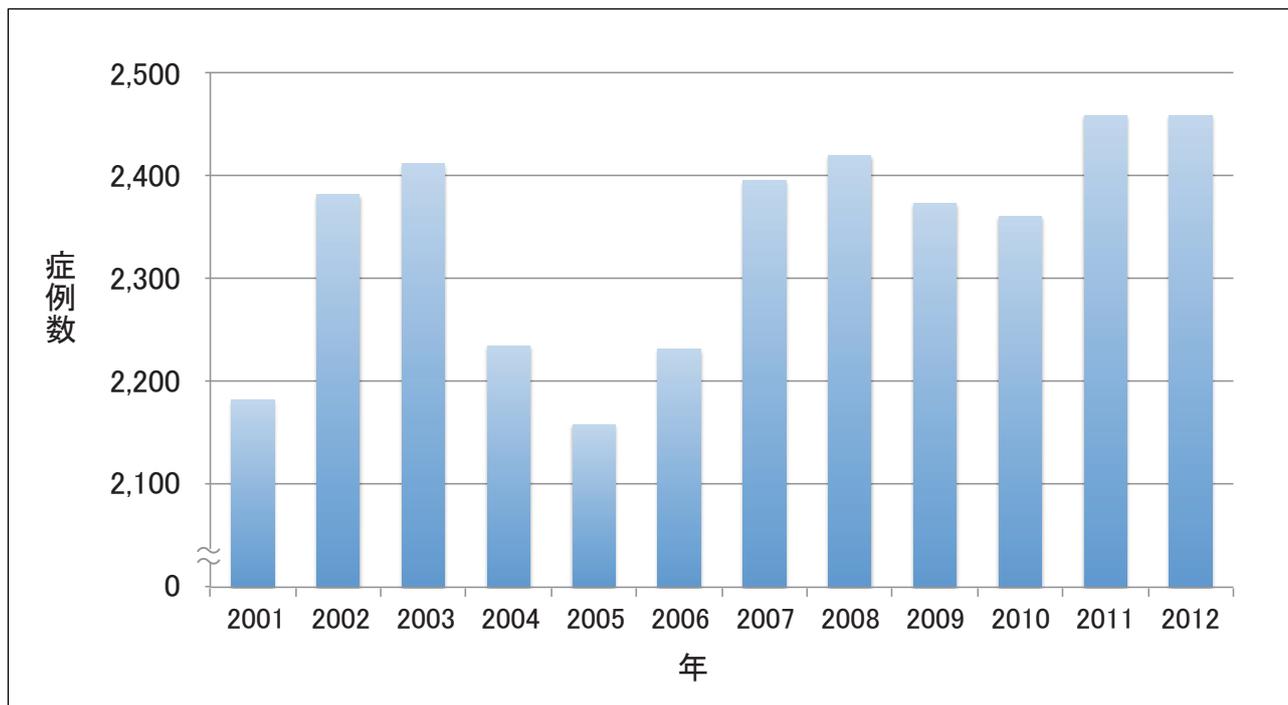
科名	入室者数
外科	188
呼吸器外科	108
整形外科	78
泌尿器科	71
脳神経外科	81
神経内科	13
産婦人科	13
麻醉科	15
循環器内科	12
呼吸器内科	0
形成外科	18
消化器内科	9
総合内科	4
その他	1
合計	611

麻醉科管理患者は15名で内訳は急性薬物中毒4名、重症急性膵炎6名、心肺蘇生後1名、敗血症ショック1名、気道熱傷1名、一酸化炭素中毒1名、急性呼吸不全1名でした。

【麻醉科医名】

池田 耕自
 西山 淳 （平成17年10月～）
 山下 順正 （平成23年7月～）
 山口 智美 （平成23年4月～平成24年9月）
 村山 裕美 （平成23年7月～）
 生駒 香名子 （平成24年10月～）
 増田 秀一郎 （平成23年12月～平成24年1月）
 加藤 豊 （平成24年10月）
 宮本 昇太郎 （平成24年12月～）

【麻醉科管理症例数年次推移】



放射線診断科

放射線診断科部長 銚立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器としてCT(64列：2機、16列：1機械)・MRI(1.5T：2機)、RI・血管造影装置(Cone-beam CT)・透視装置2機・乳房X線装置・マンモトームなどを備えています。平成23年度にCT・MRI・RI装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行うIVR(Interventional radiology)の手技を必要に応じて実施しています。原発性肝癌や転移性肝癌に対する動注化学(塞栓)療法や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷による肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、重症肺炎や肺・腎などの血管奇形に対する血管内治療にも取り組んでいます。また、全身化学療法などに用いる中心静脈リザーバーや肝動注に用いる動注リザーバー埋込み術なども行なっています。その他、各診療科と協力してUS/CTガイド下生検・ドレナージなども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 銚立博文
(資格)

日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本IVR学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士(鹿児島大学)

医長 小林秀章
(資格)

日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医

後期研修医 篠原哲也

クリニック院長 大久保幸一
(資格)

日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士(鹿児島大学)

【検査件数】(平成24年度)

	件数
1. 一般撮影	46,184
2. 透視・造影撮影	1,528
3. 骨塩定量測定	413
4. X線CT	14,793
5. DSA/Angio	160
6. RI	624
7. MRI	6,119

【主病名別患者数】

肺癌	32
転移性骨腫瘍	14
肝癌	11
食道癌	7
転移性脊椎腫瘍	5
転移性脳腫瘍	5
転移性肺腫瘍	5
悪性リンパ腫	4
直腸癌	4
多部位リンパ節転移	3
肛門癌	3
乳癌	2
脾臓	2
肺動静脈瘻	1
下咽頭癌	1
転移性胸壁腫瘍	1
縦隔リンパ節転移	1
転移性肝腫瘍	1
腸間膜血栓症の疑い	1
腹腔リンパ節転移	1
胆管癌	1
多発性リンパ節転移	1
会陰部癌	1
髄膜癌腫症	1
総計	108

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	47
肝がん	18
食道癌	10
直腸癌	9
乳癌	3
胃癌	3
肛門癌	3
膵癌	3
下咽頭癌	1
脳悪性リンパ腫	1
結節硬化型ホジキン病	1
胆管癌	1
会陰部癌	1
直腸S状部結腸移行部癌	1
肝内胆管癌	1
眼窩悪性リンパ腫	1
大細胞型びまん性リンパ腫	1
大腸癌	1
合計	106

【講演・学会活動】

【発表】

当院における閉塞性黄疸・胆管炎をきたした肝細胞癌症例の検討

第30回日本Metallic stent & Graft研究会

2012年6月1日 神戸

今給黎総合病院 放射線科 銚立博文

札幌東徳洲会 画像・IVRセンター 齋藤博哉

旭川厚生 消化器科 齋藤義徳 前田重明

Transarterial embolization for traumatic pelvic fracture in our institution

10th APCCVIR 2012, 41st JSIR & 11th ISIR

平成24年5月30日～6月2日 神戸

Hideaki Kobayashi, Junichi Ideue, Hiroto

Hakamada, Tomohide Yoneyama, Koichi

Okubo, Kimihide Koga, Takanori Imakiire

Department of Radiology, Imakiire General Hospital, JPN

Department of Orthopedic Surgery, Imaki-

ire General Hospital, JPN

整形外科領域の術前 IVR」

第 58 回北海道血管造影 IVR 研究会 平成 24

年 8 月 18 日 札幌

今給黎総合病院 放射線科 銚立博文

札幌東徳洲会 画像・IVRセンター 齋藤博哉

羊ヶ丘病院 整形外科 渡辺 吾一

鹿児島大学 放射線科

馬場 康貴、林 完勇、池田 俊一郎

繰り返す TACE 後の hypovascular な再発に対し動注リザーバー療法が奏功した肝細胞癌の 1 例

鹿児島肝癌研究会 2012年11月17日 鹿児島

今給黎総合病院 放射線科

銚立博文 小林秀章 中禮久彦 大久保幸一

札幌東徳洲会 画像 IVRセンター 齋藤博哉

旭川厚生 消化器科 齋藤義徳

【座長】

鹿児島肝癌研究会 症例検討セッション I

2012年6月23日

銚立博文

【論文】

学術 「分枝動脈瘤に対する動脈塞栓術あれこれ」

鹿児島市医師会報

第 51 卷 11 号 p19-24、2012

今給黎総合病院 放射線科

銚立博文 小林秀章 中禮久彦 大久保幸一

【主催研修会】

「肝癌治療」技術指導・講演会

2012年7月7日

講師：福井県済生会病院 中央放射線診断部長

宮山士朗 先生

【平成 25 年度の計画】

平成 24 年度は井手上先生・袴田先生の大学への異動で減員となっていました。平成 25 年 4 月より篠原哲也先生が派遣されスタッフ数として元に戻りましたので引き続き質の高い画像診断・IVR業務を目標に診療していきたいと思っています。また、平成 23 年度・24 年度ともに初期研修医のローテーターが選択科目として当科で研修しており、テイーチングファイルの整備なども精力的に行いたいと思っています。

放射線治療科

放射線治療科部長 中 禮 久 彦

平成23年3月11日、先の世界大戦後で最大の歴史的国難として語り継がれるべき東日本大震災と福島第一原発事故から2年が経過しました。不幸にも犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された多くの皆様方の一刻も早い復興のために同じ日本人として何ができるのか、未だ自問自答する今日この頃です。

東北で被災された皆様方とは全く比較になりませんが、被災地とは遠く離れた当院当科でも震災及び事故直後から間接的と推測される影響がありました。それまで年間300名前後で推移していたリニアック新規患者数が、平成23年度は全236名でした。当時、予約のキャンセルが相次ぎ、放射線治療に意欲的だったのが懐疑的になられた方も少なからずいらっしゃいました。

福島で起こった放射性物質の広範な拡散による環境汚染・全身被曝と、悪性腫瘍である癌に対する局所療法である放射線治療とは全く次元・性格の異なるものであると何人もの患者さんとご家族に説明申し上げたことが思い起こされます。リニアック新規患者さんは平成24年はやや回復し、全256名でした。早期肺癌に対する定位集光照射(SRT; Stereotactic Radiation Therapy)が近年時流に沿って増加傾向にあります。

また、診断医の銚立・小林・篠原先生にご協力いただき、主に連携他院からご紹介の放射線治療目的で入院となる患者さんの病棟管理は全10名前後を継続して行っております。

なお、当院泌尿器科の中目先生のご尽力で、前立腺の放射性ヨード小線源治療は平成24年の年間患者も全65名と地域拠点民間病院としては全国屈指の件数を誇っております。

周囲の理解あるプロフェッショナルの方々を支えられながら、癌患者さんのお役に立てるべく、日々誠実かつ謙虚に診療に当たりたいと考えております。

【平成24年】

【主な原発巣別 リニアック照射新患数 内訳】

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	89名(内 肺:88名)
泌尿器系	43名(内 前立腺:31名)
消化管系(食道・胃・腸)	38名(内 食道:19名)
造血・リンパ系	26名(内 悪性リンパ腫:22名)
肝・胆・膵系	17名
乳腺系	16名

【主な転移 リニアック照射新患及び再患数 内訳】

骨	47件
脳	13件

【定位集光照射(SRT; Stereotactic Radiation Therapy)新患数 内訳】

肺:27名	脳:1名
-------	------

【スタッフ紹介】

放射線診断科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

平成元年 宮崎医科大学卒業 鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医
同3年 国立がんセンター中央病院 放射線治療部レジデント（国内留学）
同6年 一誠会 三宅病院
同7年 今給黎総合病院放射線科
同8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員
同9年 同上 助手
同17年 同上 講師
同18年 同上退局 今給黎総合病院放射線科 治療部長

平成9年 日本医学放射線学会 専門医(第2999号)
同12年 博士学位(鹿児島大学 医論第1267号)
同13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第336号)

【院内講演】

もっと皆さんに知ってもらいたい放射線治療 Mark II

平成24年3月6日

中禮久彦 袴田裕人 小林秀章 井手上淳一 大久保幸一
松下芳正 田川伸夫 小屋俊彰 飯伏順一室屋純一

【地域がん拠点病院 対外教育講演】

放射線治療の意義とその有害事象への対策

平成24年3月30日

中禮久彦 袴田裕人 小林秀章 井手上淳一 大久保幸一 松下芳正 田川伸夫 小屋俊彰 飯伏順一

平成24年11月13日

中禮久彦 小林秀章 銚立博文 大久保幸一 松下芳正 田川伸夫 小屋俊彰 飯伏順一

【院外活動】

医師ってどんな仕事？ 将来、君たちが志す時のために

平成25年2月21日 鹿児島市立西陵小学校

中禮久彦

緩和医療科

緩和医療科部長 松添大助

平成21年度に緩和ケアチームがスタートし、紹介患者数は21年;39名、22年;74名、23年;103名、24年;105名でした。

平成23年4月から精神腫瘍担当医として鹿児島大学精神神経科から小玉哲史先生に週1回(木曜日)の非常勤で来ていただくようになり、平成24年も引き続き精神面でのケアを担当していただきました。また、昨年大西看護師の不在時に手伝ってくれた森友紀看護師が緩和ケア専従看護師としてチームに加わりました。

【緩和ケアチームメンバー】

専従医師 : 松添大助
 精神腫瘍担当医師 : 小玉哲史(非常勤)
 専従看護師 : 大西玲子、森友紀
 保健師 : 植屋明代
 薬剤部 : 財間富士子、久津輪久世、富永修平、前嶋一友
 リハビリテーション部 : 古市寿子、宮之原俊一、木原智美
 栄養管理部 : 上平田美樹、鈴木聖子

【学会活動等】

《学会発表》

肺癌の疼痛コントロール中に消化管穿孔がマスクされた一例

第17回日本緩和医療学会学術大会
 2012年6月22日 神戸市
 松添大助、大西玲子、植屋明代、財間富士子

当院における緩和ケアの現状と問題点～もと外科医の視点から

第74回日本臨床外科学会総会 2012年12月1日
 東京
 松添大助

《座長》

外科医と緩和医療3
 第74回日本臨床外科学会総会 2012年12月1日
 東京
 松添大助

《講演》

緩和ケアってなに?
 健康教室 2012年7月6日 鹿児島市
 松添大助

【講義、院外活動等】

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程
 呼吸器疾患;10時間
 緩和ケア概論;2時間
 松添大助

《主催研修会》

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
 2012年10月7-8日 ホテルニュー種子島

【診療科別紹介患者数】

	平成24年
呼吸器内科	33
外科	33
呼吸器外科	13
整形外科	6
泌尿器科	5
婦人科	3
血液内科	2
消化器内科	2
放射線科	2
耳鼻科	2
循環器内科	2
総合内科	1
神経内科	1
計	105

【主な依頼内容】(複数重複あり)

疼痛コントロール	38	36.2%
疼痛以外の身体症状	27	25.7%
メンタルケア	51	48.6%
家族ケア	16	15.2%
退院支援	25	23.8%

【転帰】

介入終了	29
退院	5
死亡退院	36
ホスピス転院	18
その他転院	12
継続中	5

【在宅緩和ケア診療件数】

平成 21 年	4
22 年	10
23 年	9
24 年	9

病理診断科

病理診断科部長 田代幸恵

当科は院内の病理診断はもとより、田代が悪性リンパ腫の診断に携わる機会が多く、また白濱は軟部腫瘍を専門としていることから、それらの診断に欠かせない免疫染色を早くから導入しており、抗体も多数揃えています。その為、地域の施設に少しでもお役にたてればと院外施設からの免疫染色の依頼や診断及びコンサルテーションを受けております。

一昨年前までは技師による手動での染色で対応していましたが、年々依頼件数（枚数）が増し、手動でこなせる量を遥かに越えましたので、2011年4月までに2台（ロッシュ及びニチレイ）、また本年度は、11月に3台目の自動免疫染色装置（ライカ、Bond III）を導入しました。導入当時、3メーカーの機種がある施設は国立機関も含め全国でも3カ所目ということでした。これにより一日あたりの免疫染色標本の処理枚数を増やす事ができ、より早く染色できるようになりました。また抗体の種類や検体の状態等で各メーカーの機種に得意不得意があり、それらを考慮し使い分けることで染色特異性も向上しました。徳永技師の薄切の技術を高さとともに、それぞれの機種や抗体の特徴を把握し、安定稼働まで比較的短時間で移行できたのは担当技師の新村の努力の賜物です。また、田代と新村は免疫染色の知識を増やすべく平成24年2月25-26日に神戸大学で行われた『いむーのセミナー』を受講しました。学んだ事を次へ生かすべく、美しい三重染色や特殊染色との組み合わせなど、さらなる免疫染色の可能性を追求していきたいと思っています。

田代におきましては悪性リンパ腫や血液疾患関連のコンサルテーションや診断依頼を鹿児島大学病院、鹿児島医療センター、今村病院分院、鹿児島厚生連病院、鹿児島市医師会病院、鹿児島生協病院、南九州病院、南風病院、市立病院、済生会川内病院や相良病院、鹿児島の検査センター等から受ける機会が増えました。

各施設の優秀な病理医が送られてくる症例は、受ける側としても難しい症例が多く、できるだけ正確な診断を提供したいと、8月に田代と新村は岡山大学腫瘍病理にCDR3-PCRを勉強してきました。機械導入も終わり、現在テスト中です。

また、近年、腫瘍細胞の遺伝子変異や異常蛋白発現状況による個別化治療が行われるようになり、病理標本での遺伝子異常の検索が日常的に行われるようになりました。当院でも遺伝子異常の検索は外注しておりますが、免疫染色による判定は可能な限り院内で行うこととしております。現在、ER, PgR, KIT, EGFR, HER2, ALK1の蛋白発現検索は院内で行っており、また院外からも多数の染色依頼があり、院内や院外施設での患者様への

迅速な診断報告に繋がっていると思います。

新村技師が産業医科大で学んできた滑膜肉腫およびPNET/ユーズン肉腫グループに関するRT-PCRでは症例が少ないこともあり、本年は5件でした。鹿児島の病理施設では当院だけができる手技のため、鹿児島大学病院等からも依頼を受けており診断の確定に貢献できているものと思っております。

このように、自動免疫染色器械導入により担当技師に余力が生まれる予定でしたが、検体の増加および器械の管理、RT-PCR、CDR3-PCRのため、忙しい1年となりました。しかしその分皆様のお目に触れないところで、地域の皆様に貢献できているのではないかと考えております。

また、白濱と田代は癌拠点病院の一環として、曾於郡医師会病院の病理診断業務にも全面的に携わっております。

細胞診では婦人科の子宮頸部検体の診断がベセスダシステムへの移行となりました。それに伴い統計様式もそれに合わせたもの（日本臨床細胞学会に準拠）といたしました。また一部の検体では液状化検体処理の導入、細胞診標本での免疫染色、セルブロック作成のルーチン化などにも取り組んでいます。

さらに肥後と田邊は鹿児島の細胞検査士の数を増やすべく、細胞診検査士の養成研修会等にも積極的に参加して鹿児島や九州の後輩の指導にあたっています。また、4月に行われた検査技師会鹿児島支部主催の「子宮の日」にもスタッフとして参加し、子宮癌で亡くなられる方の減少をめざして、検診や子宮頸癌ワクチンの啓蒙活動も行いました。

診断の要である病理医は小児科や産婦人科同様、全国的にも人数が少なく、病理医の増加が急務とされていますが、24年度は将来病理医を目指す女子医学部生数人が見学に来てくれたことはとても嬉しいことでした。

25年度は技師が1名増員となり、当院研修医も病理を研修科目としていますので、自分たちも日々進化している医療知識と一緒に学びつつ、より正確で迅速な病理診断を提供し当院並びに地域全体に貢献できるよう心がけていきます。

【病理部スタッフ】

医師

- 白濱 浩 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
日本病理学会病理専門医研修指導医、臨床検査管理医、鹿児島大学医学部臨床教授)
- 田代 幸恵 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本病理学会病理専門医研修指導医、鹿児島大学医学部臨床教授)

技師

- 徳永 敬之 (臨床病理技術士)
- 肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)
- 新村 泰子 (臨床検査技師)
- 田邊 尚子 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

組織診および細胞診検体数

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
組織件数	4,736	3,232	3,644	3,346	4,065
細胞診件数	3,011	2,855	3,168	2,751	2,689

組織診断統計(H24. 1. 1-H24. 12. 31)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	(悪性)	全件	(悪性)	全件	(悪性)	
心血管	0		0		1	(0)	1
血液・骨髄・脾	16	(6)	10	(3)	4	(0)	30
リンパ節	21	(15)	35	(25)	220	(62)	276
鼻・咽頭・喉頭	35	(6)	34	(0)	14	(0)	83
肺	102	(46)	3	(1)	130	(77)	235
胸膜・縦隔・腹膜	17	(12)	0		26	(11)	43
口腔・唾液腺	16	(4)	7	(0)	70	(4)	93
食道	52	(14)	0		2	(2)	54
胃・十二指腸	436	(42)	19	(6)	26	(20)	481
小腸	11	(1)	0		19	(5)	30
大腸・肛門	270	(40)	227	(18)	95	(40)	592
肝・胆・膵	8	(4)	1	(0)	101	(24)	110
腎・尿路男性	187	(120)	116	(58)	137	(70)	440
女性器	54	(18)	26	(4)	122	(27)	202
乳腺	19	(10)	0		15	(12)	34
内分泌	3	(3)	0		10	(4)	13
中枢末梢神経	1	(1)	0		6	(0)	7
耳・眼	1	(0)	2	(0)	9	(2)	12
皮膚	220	(46)	13	(2)	863	(95)	1,096
骨・関節	19	(4)	0		8	(1)	27
軟部	16	(8)	3	(1)	111	(4)	130
その他	14	(10)	54	(2)	8	(1)	76
合計	1,518	(410)	550	(120)	1,997	(461)	4,065

細胞診診断統計 (H24. 1. 1-H24. 12. 31)

	陰 性	擬 陽 性	陽 性	材料不適	合 計
婦人科(内膜)	172	3	9	1	185
呼 吸 器	316	25	139	22	502
消 化 器	43	9	11	0	63
泌 尿 器	329	25	39	0	393
乳 腺	21	7	17	8	53
甲 状 腺	20	21	5	4	50
体 腔 液	178	8	57	0	243
リ ン パ 節	6	1	6	2	15
そ の 他	44	0	12	1	57
総 件 数	1,129	99	295	38	1,561

婦人科(膣頸部)

検体不適	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL
0	1,050	17	10	17	20
AGC	SCC	Adeno. Ca.	Other		合計
1	11	1	1		1,128

総件数 2,751

- ・術中迅速診断：255件(内、院外からの依頼：2件)(H24. 1. 1-H24. 12. 31)
(H20年度：292件、H21年度：274件、H22年度：225件、H23年度：255件)
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：29件(H24. 1. 1-H24. 12. 31)
(H20年度：22件、H21年度：21件、H22年度：22件、H23年度：44件)
- ・院外からの免疫染色依頼(パラフィン切片による)：1,405件(H24. 1. 1-H24. 12. 31)
(H20年度：1,007件、H21年度：1,086件、H22年度：966件、H23年度：1,257件)
- ・RT-PCR 5(内、院外からの依頼：3件)

【学会活動】

右大腿皮膚腫瘍

第125回鹿児島病理集談 2012年2月21日 当院講義室にて
白濱浩

EBV 関連鼻咽頭NK/T細胞リンパ腫病変中のFPH/微小EBV陰性高分化扁平上皮癌

第101回日本病理学会総会 2012年4月26-28日 東京
蓮井和久, 賈心善, 田代幸恵, 青笹克之, 佐藤栄一

鼻咽頭粘膜のコンポジットリンパ腫

第52回日本リンパ網内系学会総会 2012年6月14-16日 福島
蓮井和久, 金倉拓郎, 田代幸恵, 佐藤栄一

鹿児島 Lymphoma Conference 2012

田代幸恵 Commentator
2012年6月30日 城山観光ホテル

第329回九州・沖縄スライドコンファレンス

田代幸恵 座長
2012年9月20日 福大メディカルホール

乳腺“線維腺腫vs硬癌”

第88回鹿児島県支部定例会 2012年11月2日 相良パース通りクリニック

田邊 尚子

【院外活動】

《細胞診》

1) えびのカンファレンス 田邊 (実行委員) 2012. 1. 14

2) 子宮の日 田邊 (スタッフ) 2012. 4. 8

3) 平成24年度細胞診養成研修会、

田邊(スタッフ) 2012. 6. 10, 2012. 6. 24, 2012. 7. 1, 2012. 7. 22, 2012. 8. 5(責任者), 2012. 10. 14,
2012. 11. 25

【論文】

アルコール性肝疾患を背景にしたfocal nodular hyperplasia-like noduleの一例

鹿児島大学医学雑誌 第63巻 第3号 67-72頁 2012年1月.

渡邊照彦, 松枝秀樹, 田代幸恵, 白濱浩, 夏越祥次

¹⁸F PET for grading malignancy in thymic epithelial tumors: significant differences in ¹⁸F PET uptake and expression of glucose transporter-1 and hexokinase II between low and high-risk tumors: preliminary study.

Eur J Radiol. 2012 Jan; 81(1):146-51. PMID:20810231

Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, Yoneda S, Shirahama H, Higashi M, Nakajo M

Extranodal marginal zone lymphoma of the dura: a case report No Shinkei Geka.

2012 Dec; 40(12):1079-85. PMID:23180745

Yamada M, Hirahara K, Tomosugi T, Ishii T, Taniguchi A, Nishimuta Y,

Kawahara D, Sadamura Y, Uetsuhara K, Sueyoshi K, Tashiro Y, Yoshino T, Fujii M

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成24年12月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっております。通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、2回／月の定期訪問診察を行っています。

平成24年度は4人の先生に協力いただいております。途中、徳永医師は勤務異動となり、新たに篠原医師の御協力を得る事ができ、患者様に影響をおよぼすことなく診療ができております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、徳永(神経内科)、篠原(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、三宅(総合内科)

【診療状況】

平成24年12月31日において当院在宅医療部の訪問診察を受けている方は28名(緩和医療科を含めると32名)となっています。

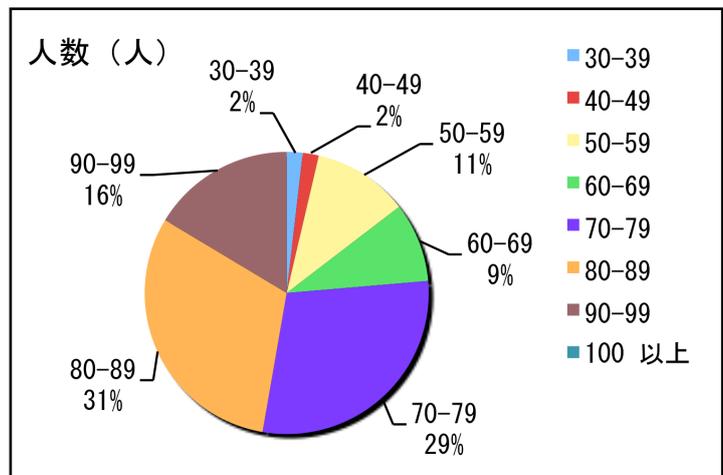
全身状態が悪化した場合は、在宅で経過を見る場合もあれば、入院での治療も行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。H24年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 55名 (男性 32名 女性23名)

【患者年齢】

年代	人数 (人)
30-39	1
40-49	1
50-59	6
60-69	5
70-79	16
80-89	17
90-99	9
100以上	0
合計	55



【平成 24 年 月別訪問診察人数】（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	32	29	32	33	34	33	35	36	34	32	33	32
（入院数）	4	2	6	5	3	7	1	5	2	6	3	5
終了：死亡	2	3	1	2	0	1	1	1	0	1	0	1
終了：その他	0	1	0	0	0	1	0	0	2	3	1	2

【主疾患名】

疾患	（人）	疾患	（人）
神経系疾患	19	腫瘍	14
循環器疾患	9	内分泌系・代謝疾患	1
筋・骨格系、結合組織	2	損傷・中毒、外因の影響	5
呼吸器疾患	5	合計	55

【平成 24 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	43	43	36	38	35	38	45	46	44	43	40	38	489
（緩和診察）	(1)	(3)	0	0	0	0	(8)	(5)	(2)	(2)	(2)	(3)	(26)
訪問リハビリ	12	81	13	16	14	12	16	12	12	12	9	11	152
訪問看護	90	13	86	94	102	94	105	112	95	110	101	98	1,168
合計（件）	145	137	135	148	151	144	166	170	151	165	150	147	1,809

【平成 23 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	42	37	47	40	34	39	49	48	48	47	47	60	538
訪問リハビリ	12	12	12	12	13	13	12	13	12	13	14	12	150
訪問看護	72	75	92	89	66	110	106	101	106	102	108	117	1,144
合計（件）	126	124	151	141	113	162	167	162	166	162	159	189	1,822

【平成 22 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	51	55	73	50	57	47	57	48	44	46	43	48	619
訪問リハビリ	11	11	13	13	10	12	11	11	7	7	11	16	133
訪問看護	94	113	136	101	79	92	88	92	98	89	81	86	1,149
合計（件）	156	180	222	164	146	151	156	151	149	142	135	150	1,902

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田雅司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。標榜科としては、歯科と歯科口腔外科として日常診療を行っている。外来診療は、歯科医師3名、歯科衛生士3名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフと数名の非常勤歯科医師で行われ、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を主に診療しています。また、当科は長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、常勤歯科医師の派遣が行われるようになり、現在は、三浦桂一郎先生が赴任しています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来診療

- 1) う歯、根管治療、義歯やブリッジなどの補綴治療などの一般歯科治療
- 2) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、歯科インプラント治療に関連した治療
- 3) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作製や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科

2. 入院診療

- 1) 顎矯正手術：最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や歯科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思っています。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）

日本口腔外科学会 指導医 専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医、
日本スポーツ歯科医学会 理事、日本自己血輸血学会 評議員 理事、鹿児島大学非常勤講師、
福岡歯科大学非常勤講師、長崎大学非常勤講師、ヤンゴン歯科大学客員教授

鎌田ユミ子（歯科医師）

日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

三浦桂一郎（歯科医師）

日本口腔外科学会 専修医、日本口腔インプラント学会、日本口腔科学会、日本顎変形症学会
日本頭頸部癌学会

瀬戸山智香（歯科衛生士） 日本スポーツ歯科医学学会認定スポーツデンタルハイジニスト

瀬戸山奈緒（歯科衛生士）

吉田千代子（歯科衛生士）

前田まどか（歯科技工士）

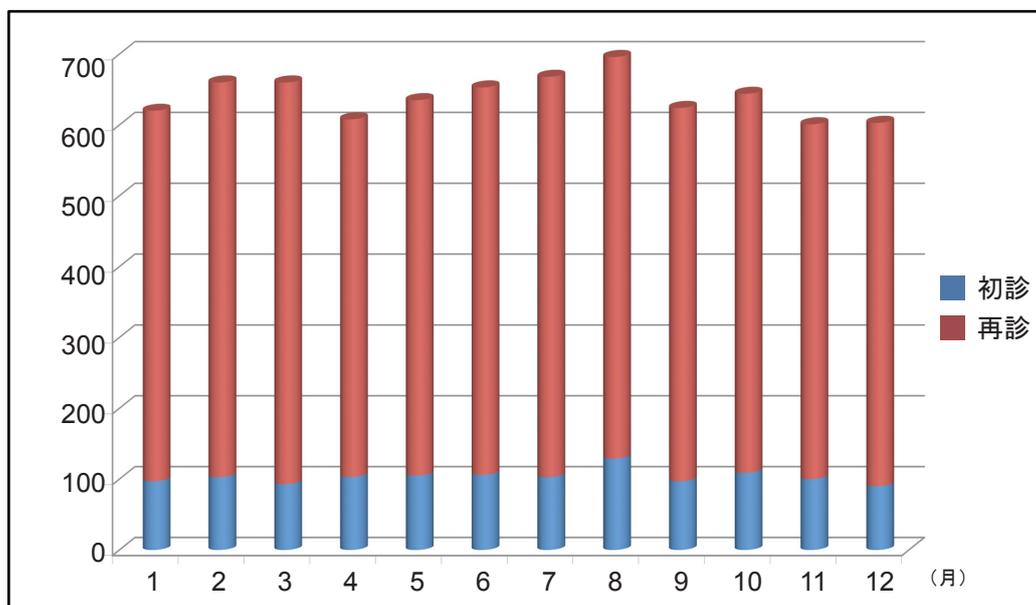
【2012年 統計】

・ 外来患者数 7,672人（新患1,235人）

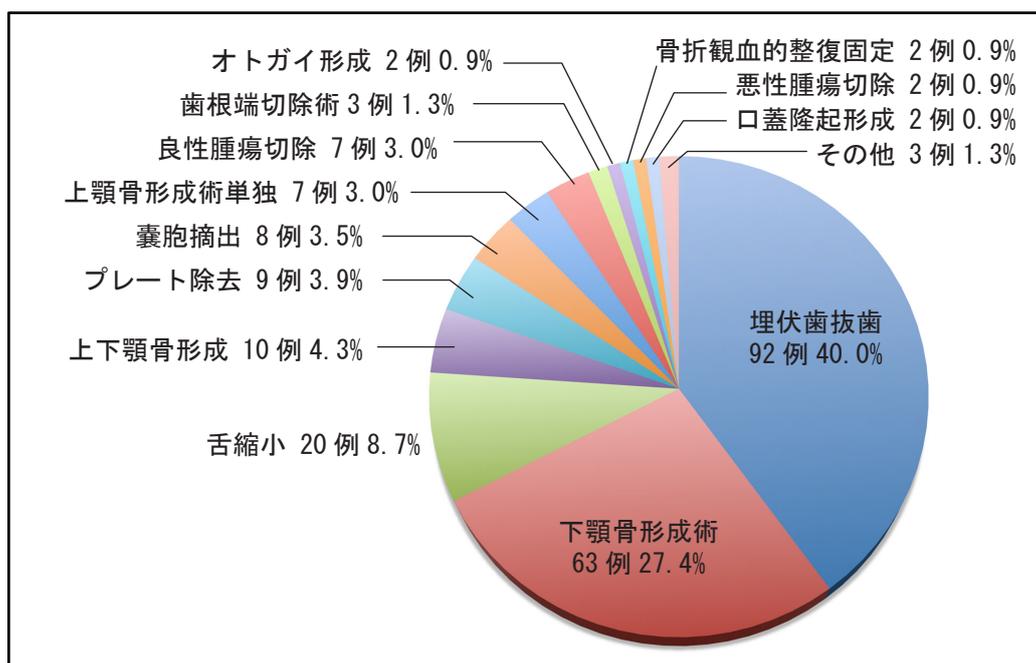
・ 入院患者 198名

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
初診	97	103	93	103	105	106	103	129	97	109	100	90	1,235
再診	523	557	567	505	530	547	565	567	527	535	501	513	6,437
人数	620	660	660	608	635	653	668	696	624	644	601	603	7,672

【2012年月別外来患者数】



【2012年度手術数(230症例)】



【2012年業績】

【学会発表】

顎矯正手術における自己血輸血に関するアンケート調査

第22回日本顎変形症学会総会
2012年6月18・19日 福岡
吉田雅司、河野俊広

矯正手術時の入院治療期間に関する検証

第22回日本顎変形症学会総会
2012年6月18、19日 福岡
河野俊広、吉田雅司

下顎水平埋伏智歯抜歯時における2回法抜歯術および歯冠切除術の臨床的検討

第80回日本口腔外科学会九州地方会
2012年6月23日 鹿児島
河野俊広、吉田雅司

当院における輸血療法の現状～学会認定・自己血輸血看護師の活動報告 第2報～

第19回鹿児島自己血輸血療法研究会
2012年7月21日 鹿児島
今給黎総合病院 1) 看護部 2) 検査部
3) 歯科口腔外科
1) 徳恵梨香 日高百合子 田川愛子
久保ひとみ 濱田緑 二之宮ルミ子
2) 今堀貴之
3) 吉田雅司

幼少時の口唇裂形成術と口蓋裂形成術以後、未治療の左完全唇顎口蓋裂術後変形の一例

第57回日本口腔外科学会学術総会
2012年10月19-21日 横浜
1) 今給黎総合病院歯科口腔外科 (鹿児島市)
2) 矯正歯科くろえクリニック (鹿児島市)
3) 湯田歯科医院 (鹿児島市)
吉田雅司・河野俊広1、黒江和斗2、湯田晃大3

【講演、その他】

スポーツ歯科の現状～スポーツ外傷に対する口腔外科的アプローチ～

長崎大学歯学部 2012年4月3日
吉田雅司

国際医療ボランティア活動

鹿児島大学探訪 2012年5月22日
吉田雅司

スポーツ歯科の現状

鹿児島県体育協会スポーツドクター協議会研修会 2012年6月23日
吉田雅司

スポーツ歯科って何～咬むということ～

サザンウィンドロータークラブ
2012年8月23日
吉田雅司

【院外活動（ボランティアなど）】

平成24年度第2回屋久島町口永良部島・歯科巡回診療

期間：2012年11月5日(月)～8日(木)
場所：口永良部地区・口永良部島診療所

ミャンマー診療隊

期間：2013年3月4日(月)～15日(金)
場所：ミャンマー連邦国(ヤンゴン・サガイン)